

第4章 DV(配偶者等からの暴力)について

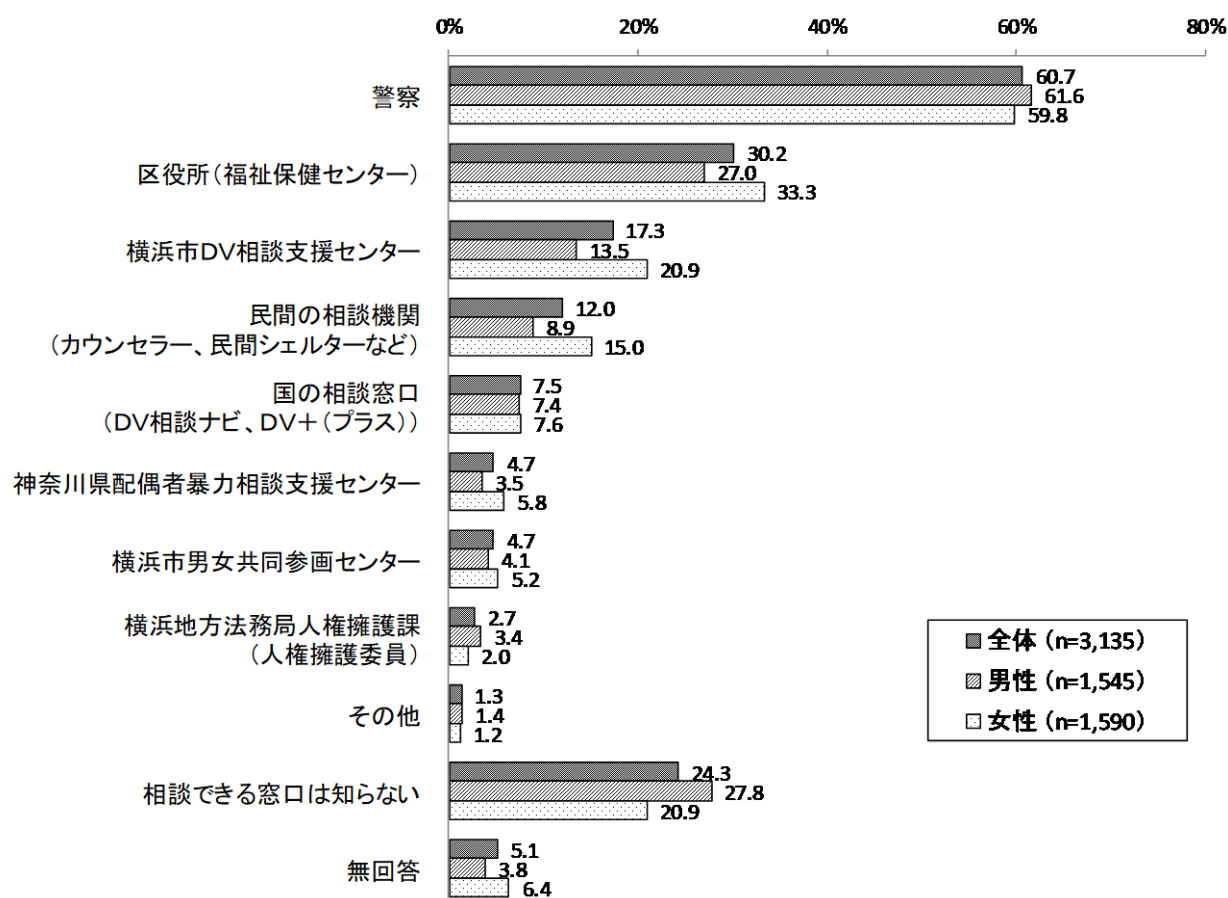
1 配偶者やパートナーからの暴力についての相談窓口の認知度(問16)(複数回答)

配偶者やパートナーからの暴力について相談できる窓口を知っているかたずねた。

全体では「警察」(60.7%)の割合が最も高く、次いで「区役所(福祉保健センター)」(30.2%)、「横浜市DV相談支援センター」(17.3%)の順となっている。また、「相談できる窓口は知らない」は24.3%となっている。

性別でみると、「横浜市DV相談支援センター」は女性(20.9%)が男性(13.5%)を7.4ポイント上回っている。

図表4-1 配偶者やパートナーからの暴力についての相談窓口の認知度 — 性別



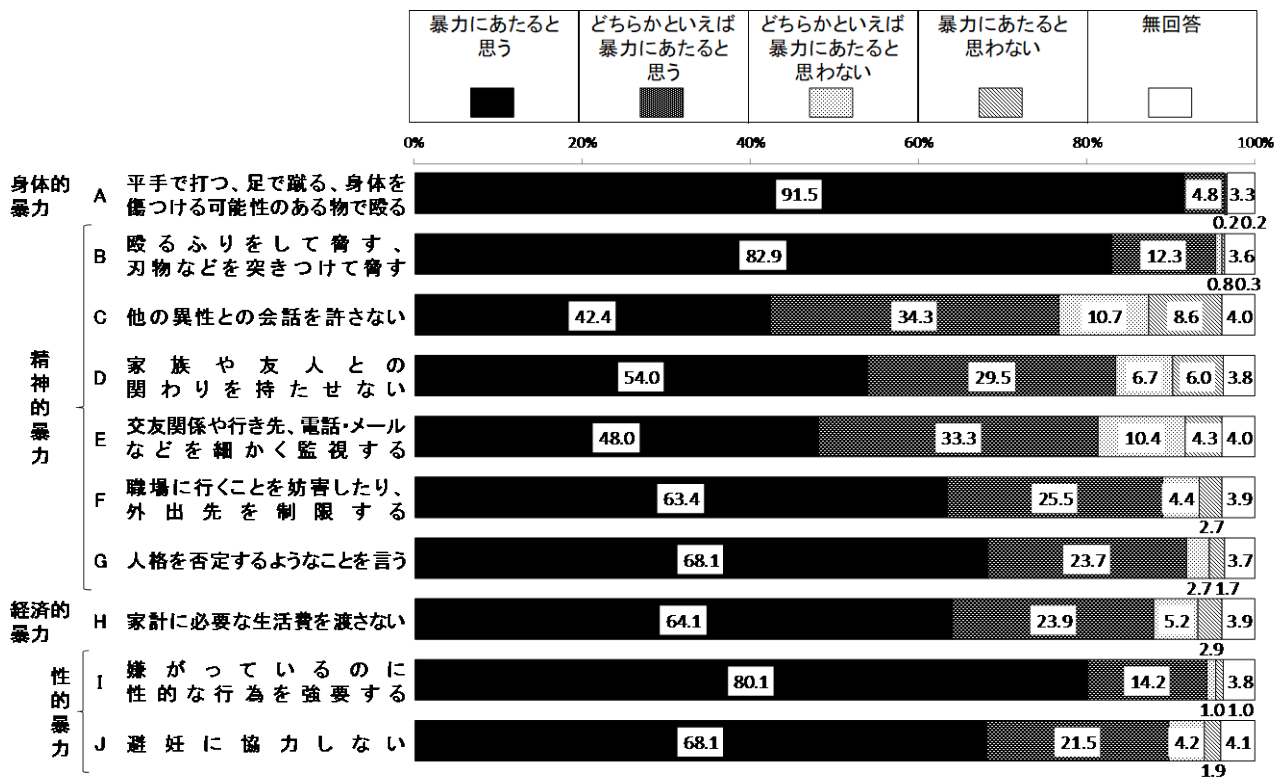
2 配偶者やパートナー、交際相手の間での暴力と思われる行為（問17）

配偶者やパートナー、交際相手の間で行われるそれぞれの行為が、暴力にあたると思うかをたずねた。

「暴力にあたると思う」は、「平手で打つ、足で蹴る、身体を傷つける可能性のある物で殴る」(91.5%)で最も高く、次いで、「殴るふりをして脅す、刃物などを突きつけて脅す」(82.9%)、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」(80.1%)となっている。

全体的には、精神的暴力は、身体的・性的暴力に比べ暴力であるとの認識が低いものもみられ、特に、「他の異性との会話を許さない」、「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」は、「暴力にあたると思わない」（「どちらかといえば暴力にあたると思わない」と「暴力にあたると思わない」の合計）がそれぞれ19.3%、14.7%とほかの行為よりも高く、暴力と認識される割合が低い。

図表4-2 配偶者やパートナー、交際相手の間での暴力と思われる行為



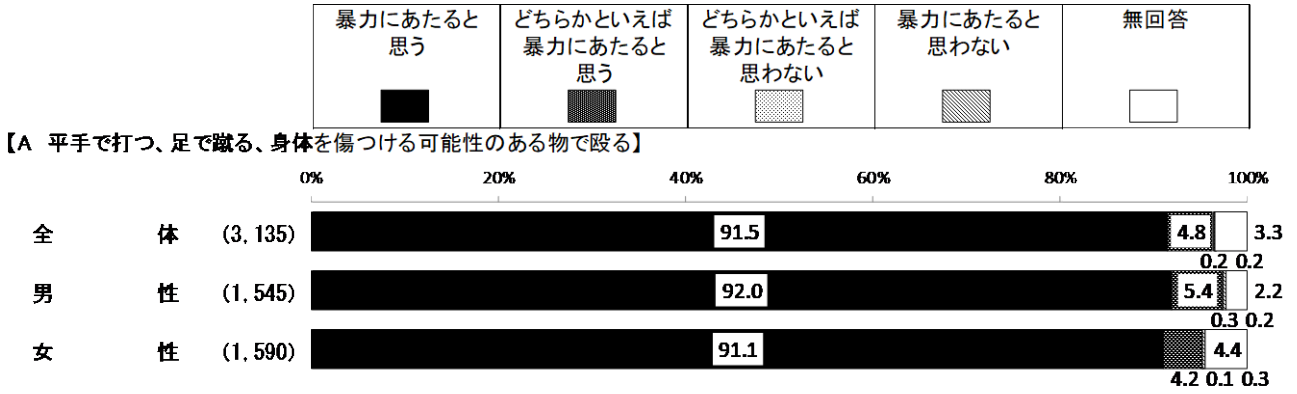
(1) 配偶者やパートナー、交際相手の間での暴力と思われる行為（身体的暴力）

身体的暴力について、全体では「暴力にあたると思う」が91.5%となっている。

性別でみると、とくに大きな差はみられない。

図表4-2-1 配偶者やパートナー、交際相手の間での暴力と思われる行為（身体的暴力）

－ 性別

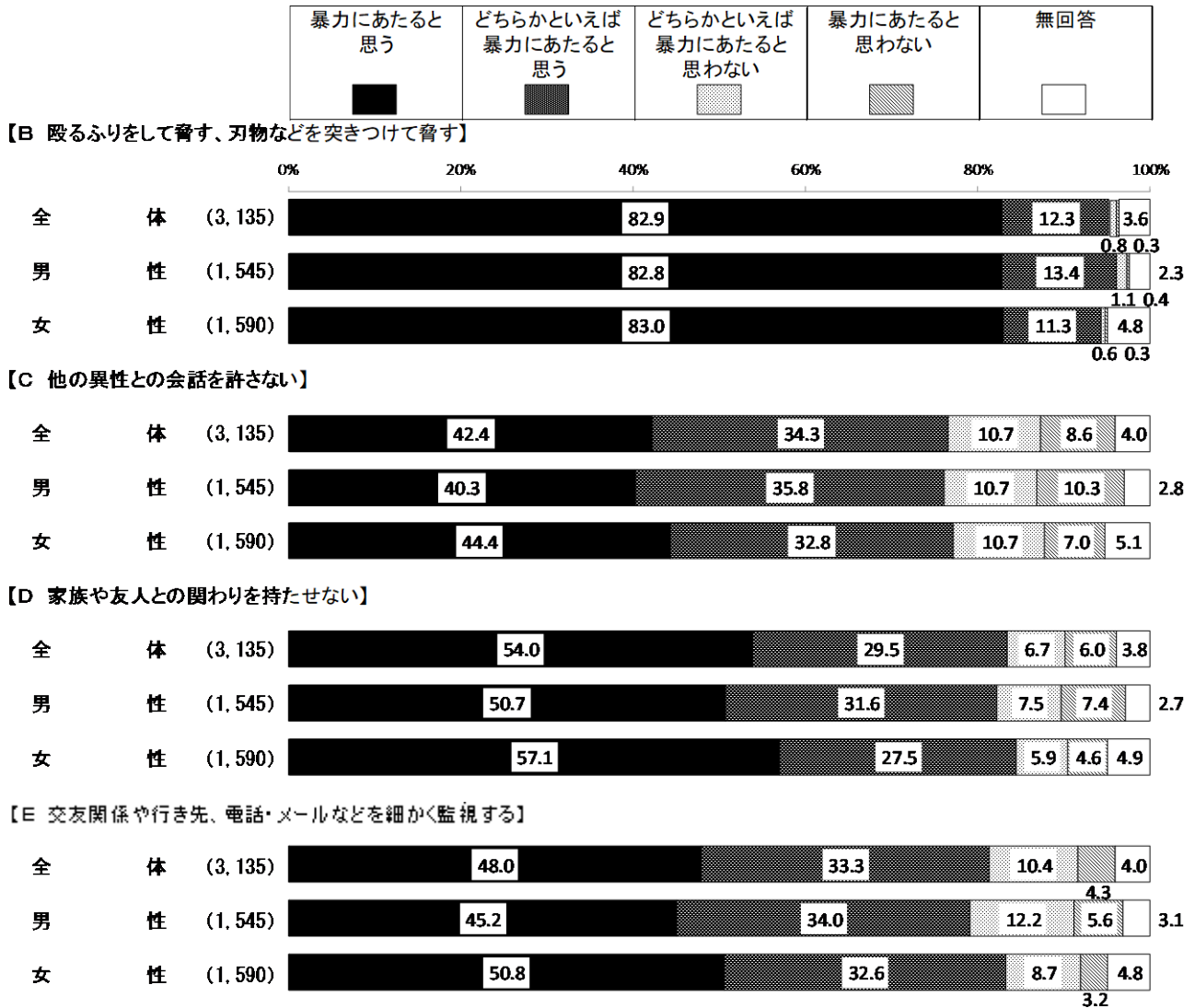


(2) 配偶者やパートナー、交際相手の間での暴力と思われる行為（精神的暴力）

精神的暴力について、「殴るふりをして脅す、刃物などを突きつけて脅す」では「暴力にあたると思う」（82.9%）の割合が最も高くなっている。

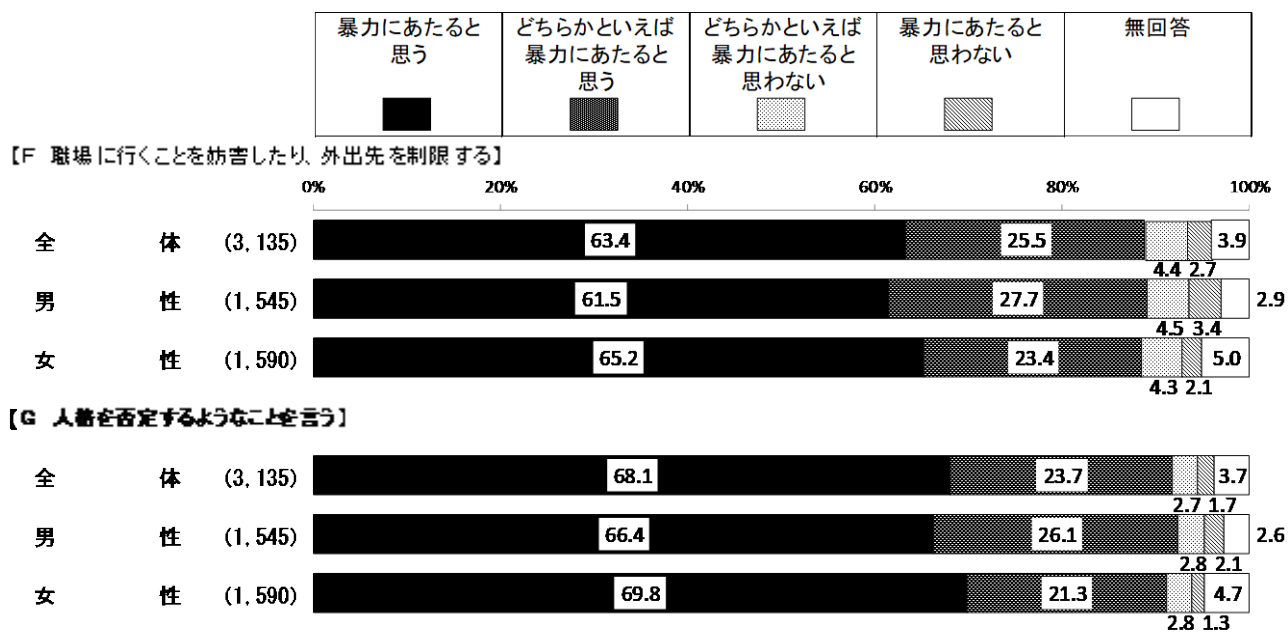
性別で見ると、どの項目でも男女ともに同様の認識であるが、「暴力にあたると思う」と回答した割合は女性の方が若干高くなっている。

図表 4-2-2 配偶者やパートナー、交際相手の間での暴力と思われる行為（精神的暴力）
— 性別（1/2）



図表 4-2-2 配偶者やパートナー、交際相手の間での暴力と思われる行為（精神的暴力）

－ 性別（2/2）



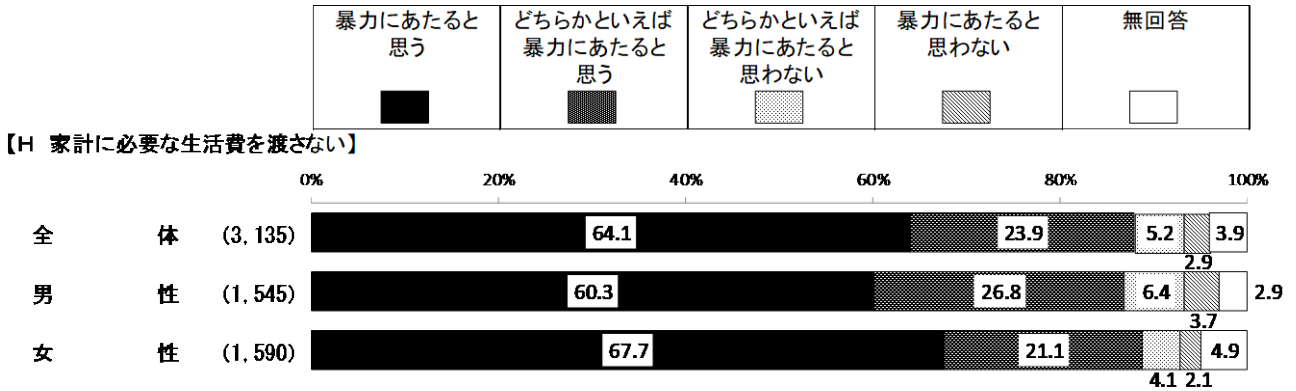
(3) 配偶者やパートナー、交際相手の間での暴力と思われる行為（経済的暴力）

経済的暴力についてみると、全体では「暴力にあたると思う」が64.1%となっている。

性別でみると、男女ともに同様の認識であるが、「暴力にあたると思う」と回答した割合は女性の方が7.4ポイント高くなっている。

図表4-2-3 配偶者やパートナー、交際相手の間での暴力と思われる行為（経済的暴力）

－ 性別

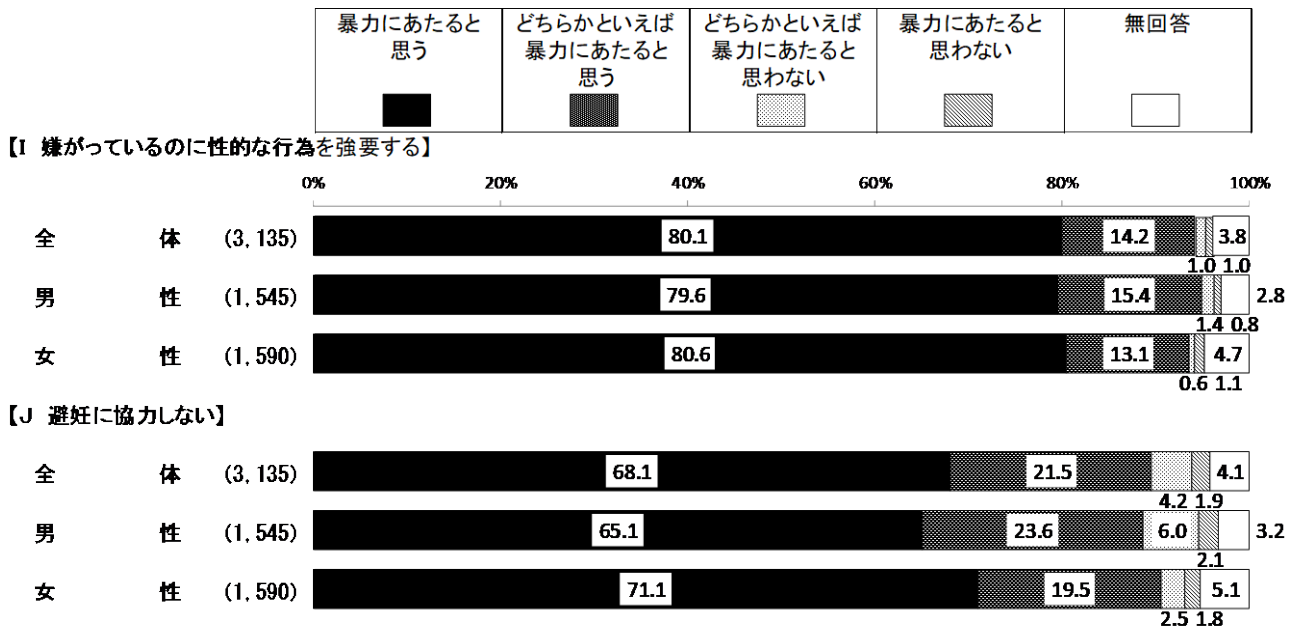


(4) 配偶者やパートナー、交際相手の間での暴力と思われる行為（性的暴力）

性的暴力についてみると、「暴力にあたると思う」の割合は、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」で80.1%、「避妊に協力しない」では68.1%となっている。

性別でみると、男性、女性ともに同様の認識であるが、「暴力にあたると思う」と回答した割合は女性の方が若干高くなっている。

図表4-2-4 配偶者やパートナー、交際相手の間での暴力と思われる行為（性的暴力） — 性別



3 配偶者やパートナー、交際相手から暴力にあたる行為を受けた経験（問18）

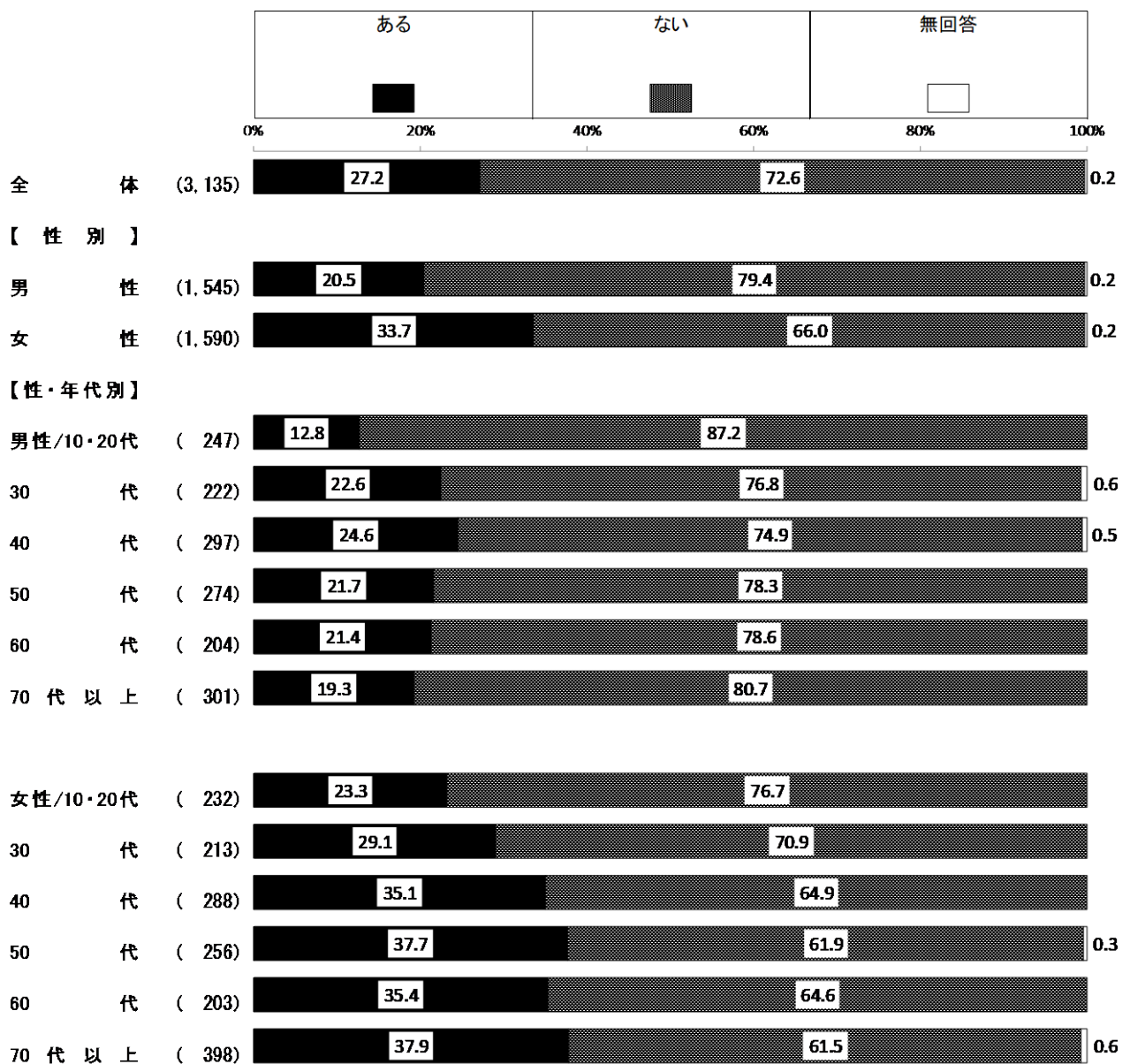
何らかの暴力を受けたことがある

配偶者やパートナー、交際相手から暴力にあたる行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）は、全体で27.2%であった。

性別で見ると、女性（33.7%）が男性（20.5%）を13.2ポイント上回っており、女性の方が暴力にあたる行為を受けた経験の割合が高くなっている。

性・年代別で見ると、いずれの年代でも男性より女性の方が、暴力にあたる行為を受けた経験の割合が高くなっている。

図表4-3 配偶者やパートナー、交際相手から暴力にあたる行為を受けた経験
- 性別、性・年代別



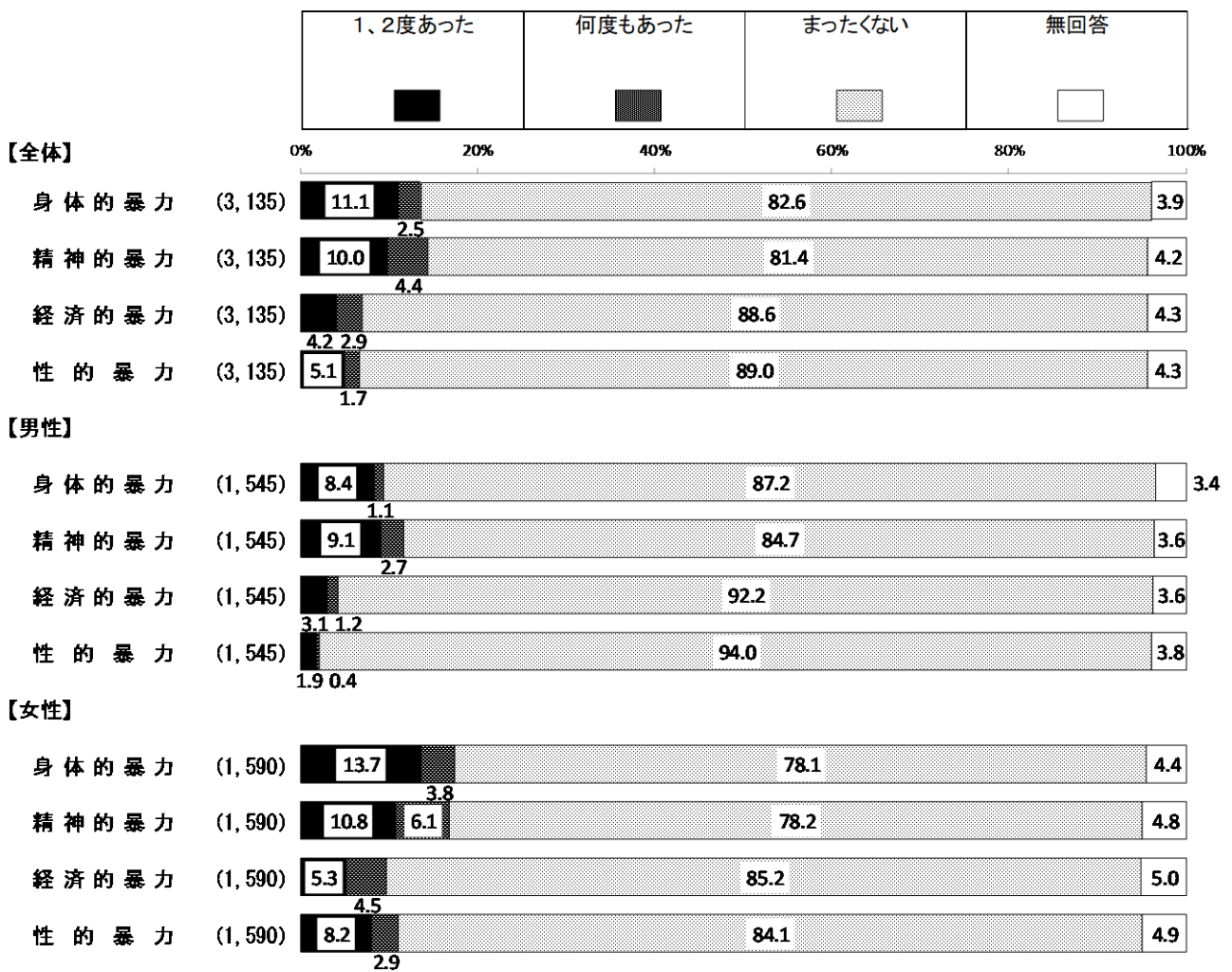
(1) 身体的暴力、精神的暴力、性的暴力の類型別経験

配偶者やパートナー、交際相手から暴力にあたる行為を受けたと答えた人を類型別で見ると、精神的暴力(14.4%)が最も高く、次いで、身体的暴力(13.6%)、経済的暴力(7.1%)、性的暴力(6.8%)となっている。

性・類型別で見ると、いずれの暴力についても、女性の方が男性よりも暴力にあたる行為を受けた割合が高く、特に、性的暴力では女性(11.1%)が男性(2.3%)の5倍近くとなっている。

過去調査との比較をみると、身体的暴力(13.6%)は平成30年度調査(9.6%)を4.0ポイント上回っている。

図表4-3-1-1 配偶者やパートナー、交際相手から暴力にあたる行為を受けた経験
- 類型別、性・類型別

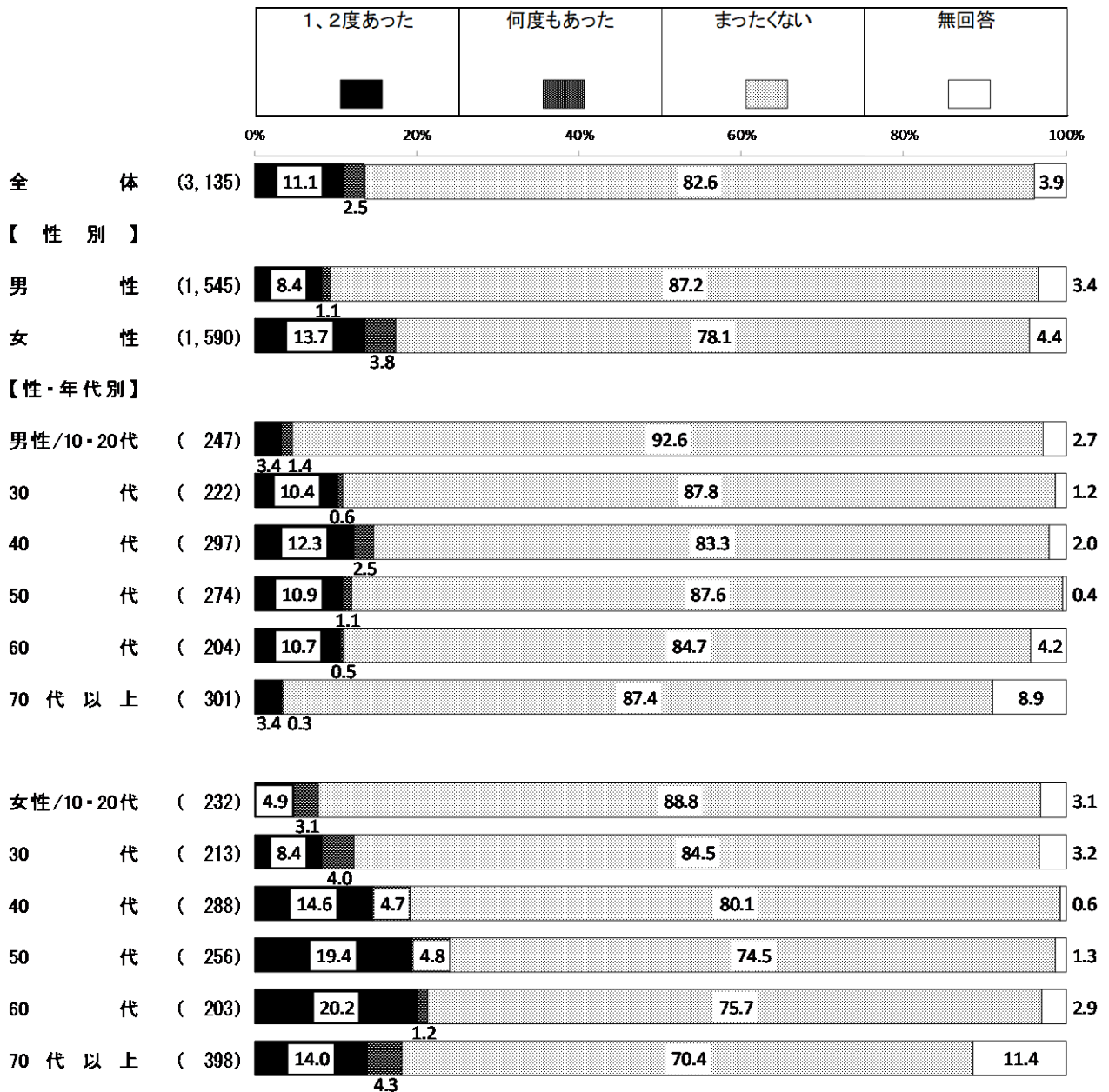


(2) 配偶者やパートナー、交際相手から身体的暴力にあたる行為を受けた経験

－ 性別、性・年代別

配偶者やパートナー、交際相手から身体的暴力にあたる行為を受けたと答えた人を性・年代別で見ると、いずれの年代でも女性が男性を上回っている。男性は40代、女性は50代の割合が最も高くなっている。

図表4-3-1-2 配偶者やパートナー、交際相手から身体的暴力にあたる行為を受けた経験
－ 性別、性・年代別

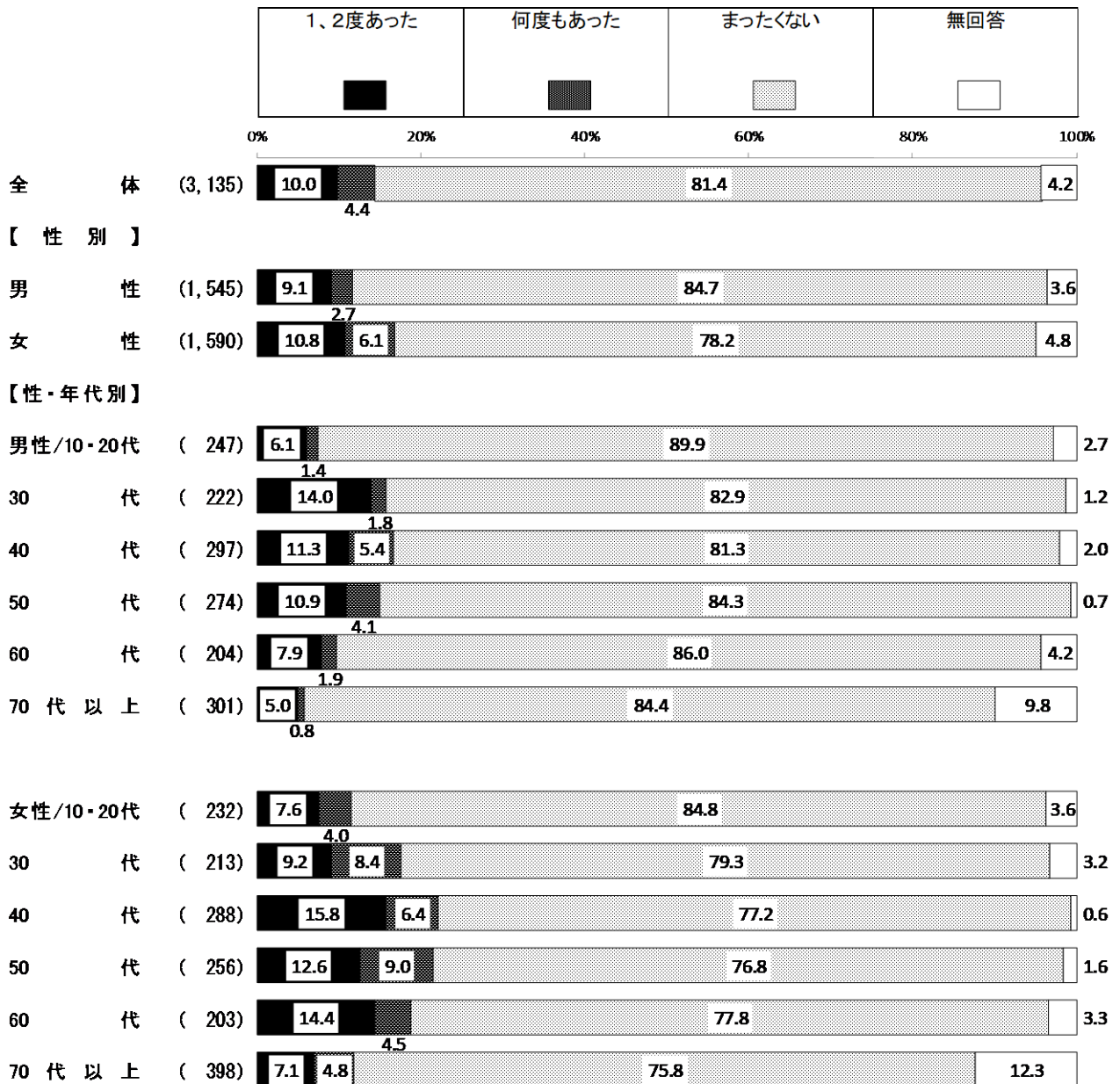


(3) 配偶者やパートナー、交際相手から精神的暴力にあたる行為を受けた経験

－ 性別、性・年代別

配偶者やパートナー、交際相手から精神的暴力にあたる行為を受けたと答えた人を性・年代別で見ると、いずれの年代でも女性が男性を上回っている。男性、女性ともに 40 代の割合が高くなっている。

図表 4-3-1-3 配偶者やパートナー、交際相手から精神的暴力にあたる行為を受けた経験
－ 性別、性・年代別

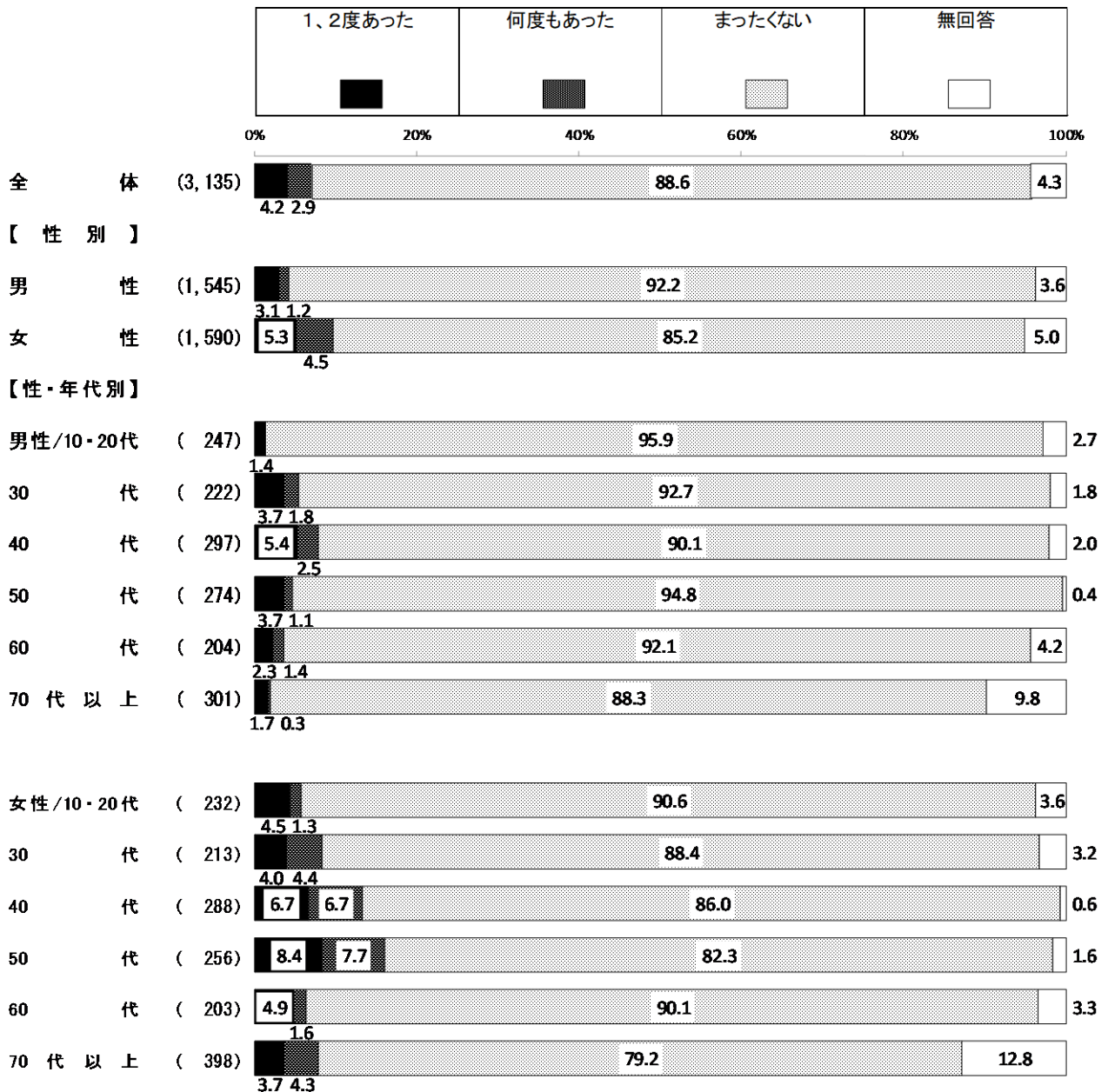


(4) 配偶者やパートナー、交際相手から経済的暴力にあたる行為を受けた経験

－ 性別、性・年代別

配偶者やパートナー、交際相手から経済的暴力にあたる行為を受けたと答えた人を性・年代別で見ると、いずれの年代でも女性が男性を上回っている。男性は40代、女性は50代の割合が高くなっている。

図表4-3-1-4 配偶者やパートナー、交際相手から経済的暴力にあたる行為を受けた経験
－ 性別、性・年代別

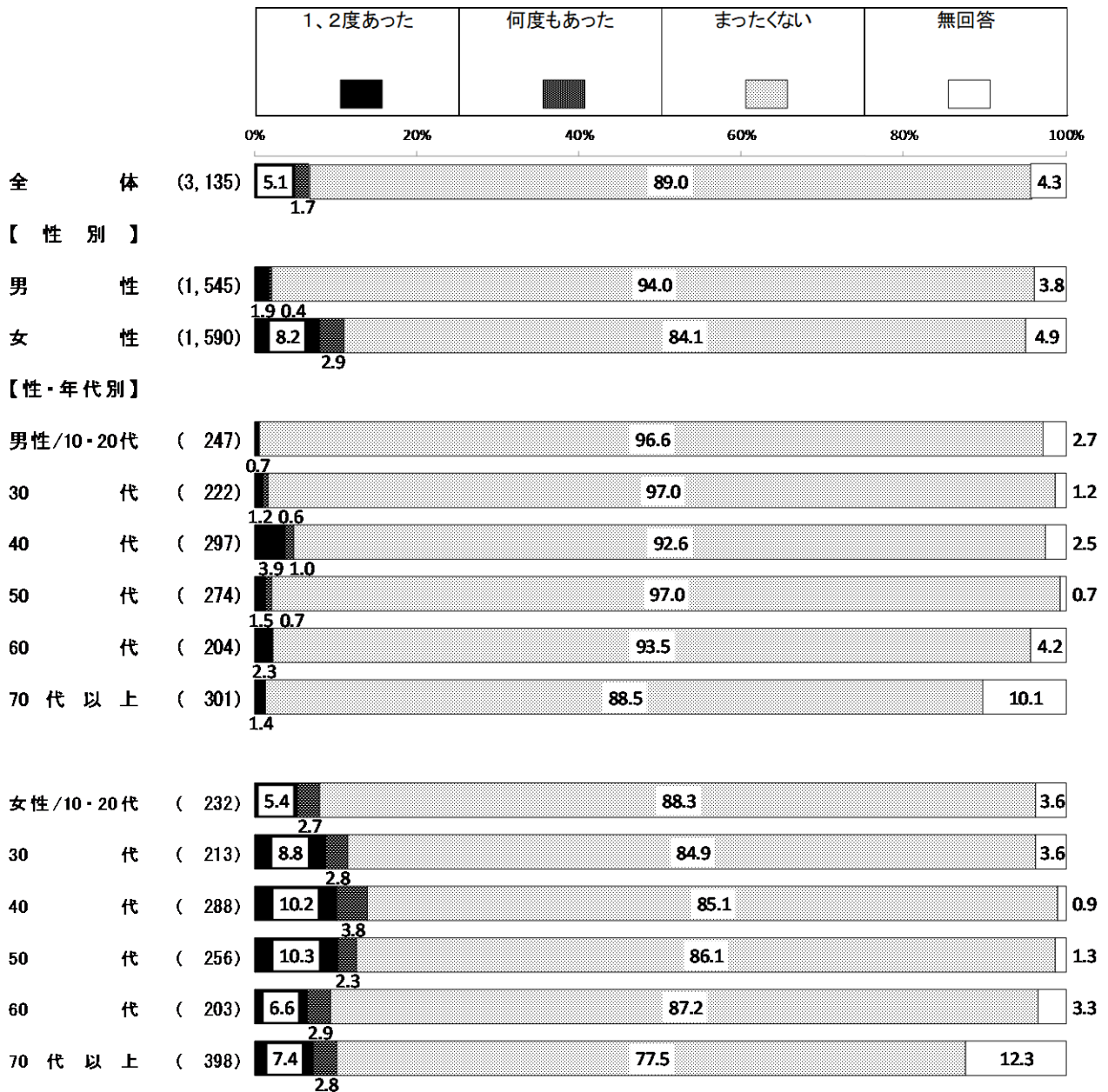


(5) 配偶者やパートナー、交際相手から性的暴力にあたる行為を受けた経験

－ 性別、性・年代別

配偶者やパートナー、交際相手から性的暴力にあたる行為を受けたと答えた人を性・年代別で見ると、いずれの年代でも女性が男性を上回っている。男性、女性ともに40代の割合が最も高くなっている。

図表4-3-1-5 配偶者やパートナー、交際相手から性的暴力にあたる行為を受けた経験
－ 性別、性・年代別



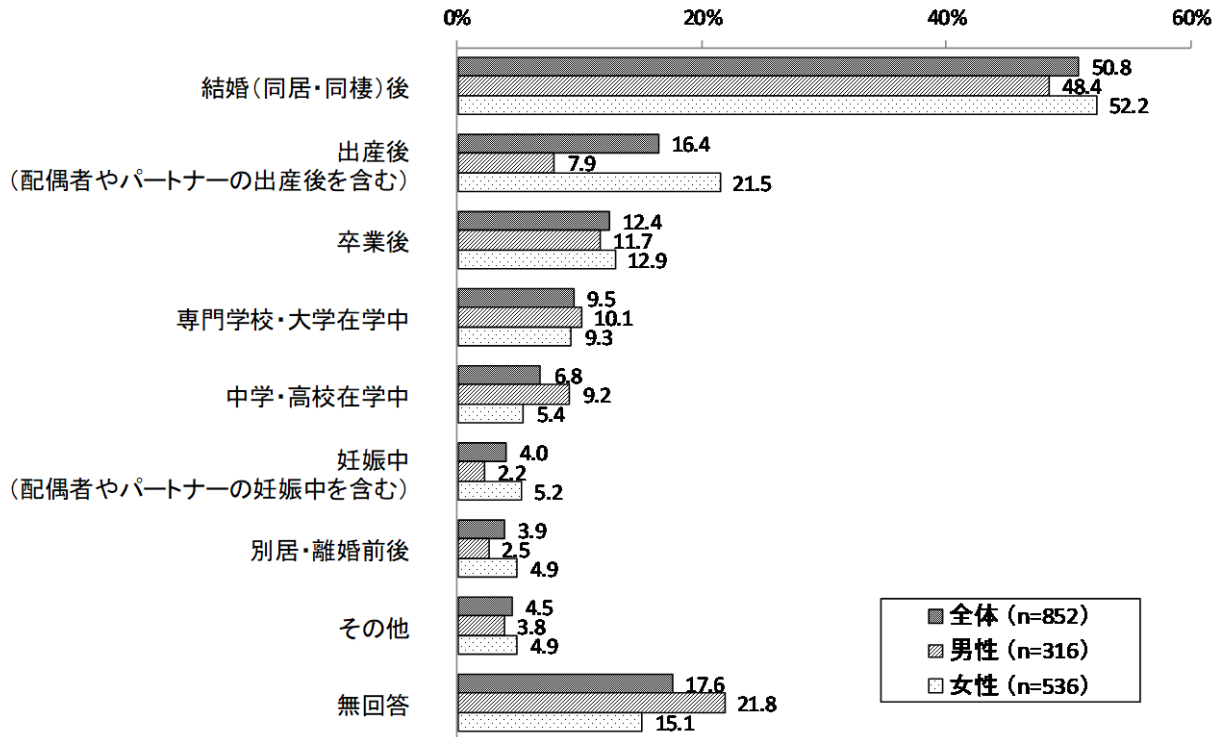
3-1 暴力にあたる行為を受けた時期（問18-1）（複数回答）

問18でいずれかの暴力にあたる行為を「1、2度あった」および「何度もあった」と回答した人（852人）に、その行為を受けた時期をたずねた。

全体では、「結婚（同居・同棲）後」が50.8%で最も多く、次いで「出産後（配偶者やパートナーの出産後を含む）」（16.4%）、「卒業後」（12.4%）の順となっている。

性別で見ると、「出産後（配偶者やパートナーの出産後を含む）」では女性（21.5%）が男性（7.9%）を13.6ポイント上回っている。

図表4-3-2 暴力にあたる行為を受けた時期 — 性別



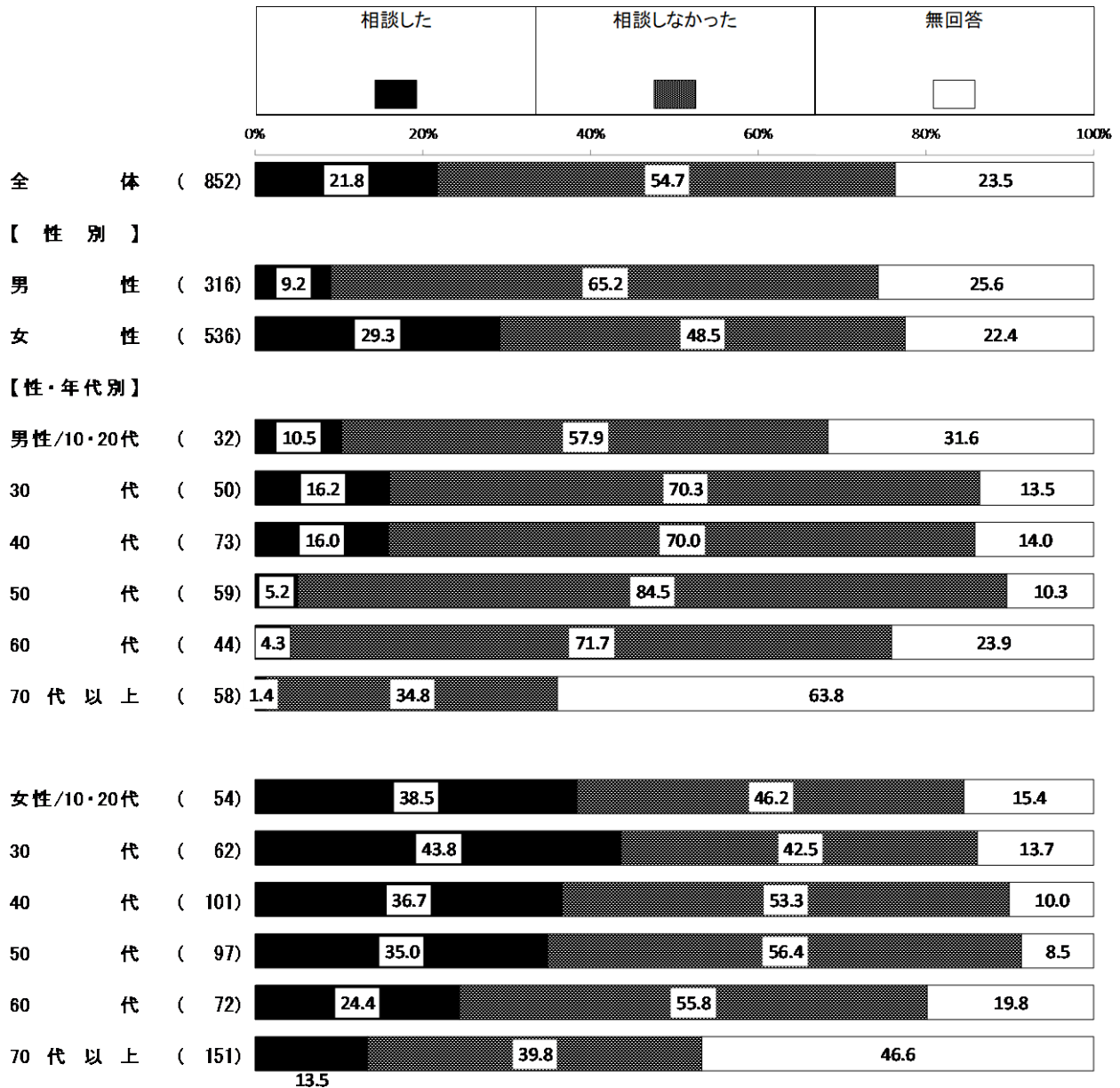
3-2 暴力にあたる行為を受けた後の相談（問18-2）

配偶者やパートナーから暴力にあたる行為を受けた人（852人）に対し、そのような行為を受けたことについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしたかをたずねた。

全体では「相談しなかった」が54.7%で最も高くなっている。

性別でみると、「相談した」は女性（29.3%）が男性（9.2%）を大きく上回っている。

図表4-3-3 暴力にあたる行為を受けた後の相談 — 性別、性・年代別



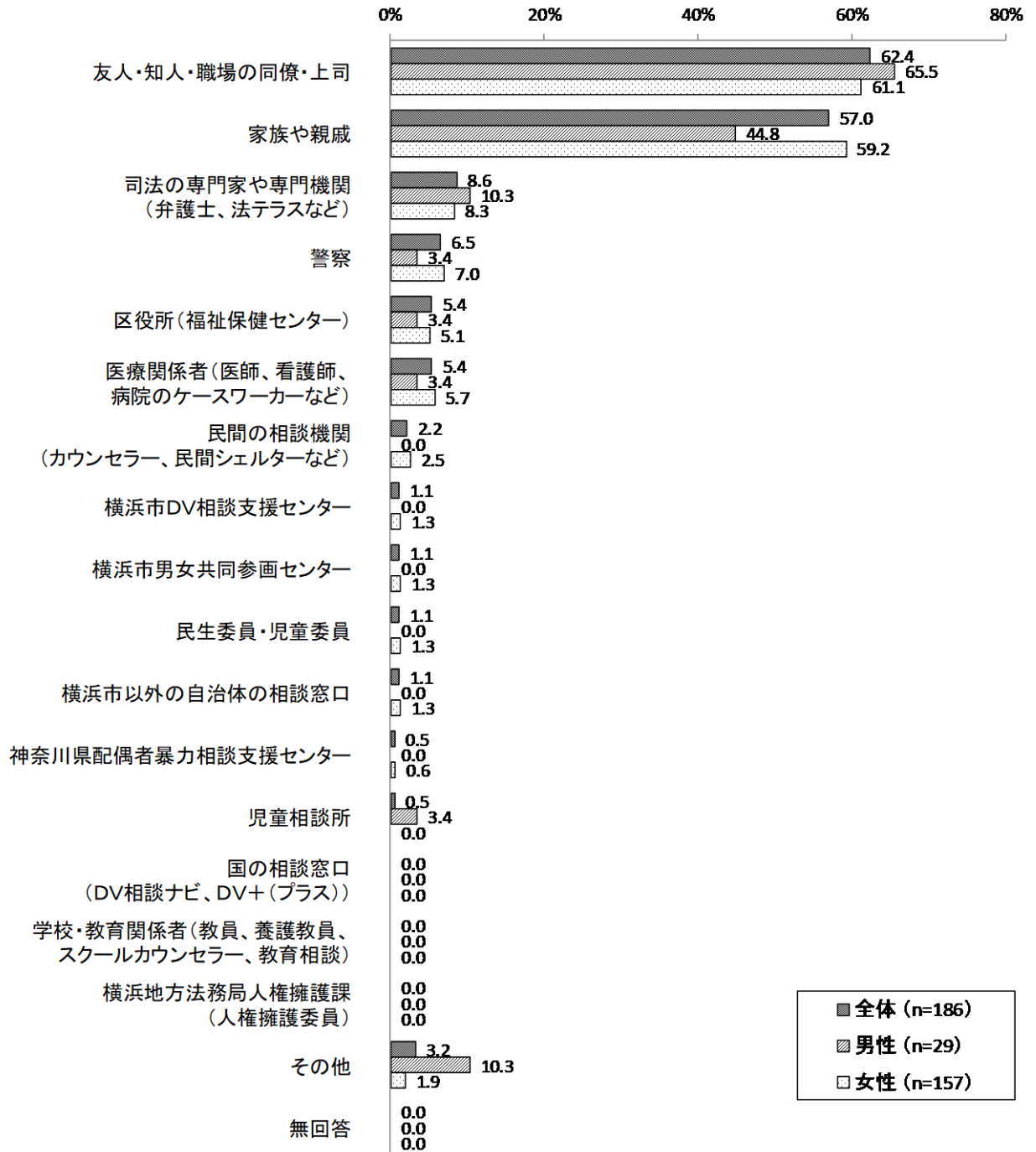
3-3 相談した先（問18-3）（複数回答）

問18-2で「相談した」と回答した人（186人）に、相談先をたずねた。

全体では「友人・知人・職場の同僚・上司」（62.4%）と「家族や親戚」（57.0%）が高い割合になっており、身近な人への相談が多い。次いで、「司法の専門家や専門機関（弁護士、法テラスなど）」（8.6%）、「警察」（6.5%）、「区役所（福祉保健センター）」（5.4%）の順になっている。

性別でみると、「家族や親戚」では女性（59.2%）が男性（44.8%）を14.4ポイント上回っている。

図表4-3-4 相談した先 - 性別



3-4 相談をしなかった理由（問18-4）（複数回答）

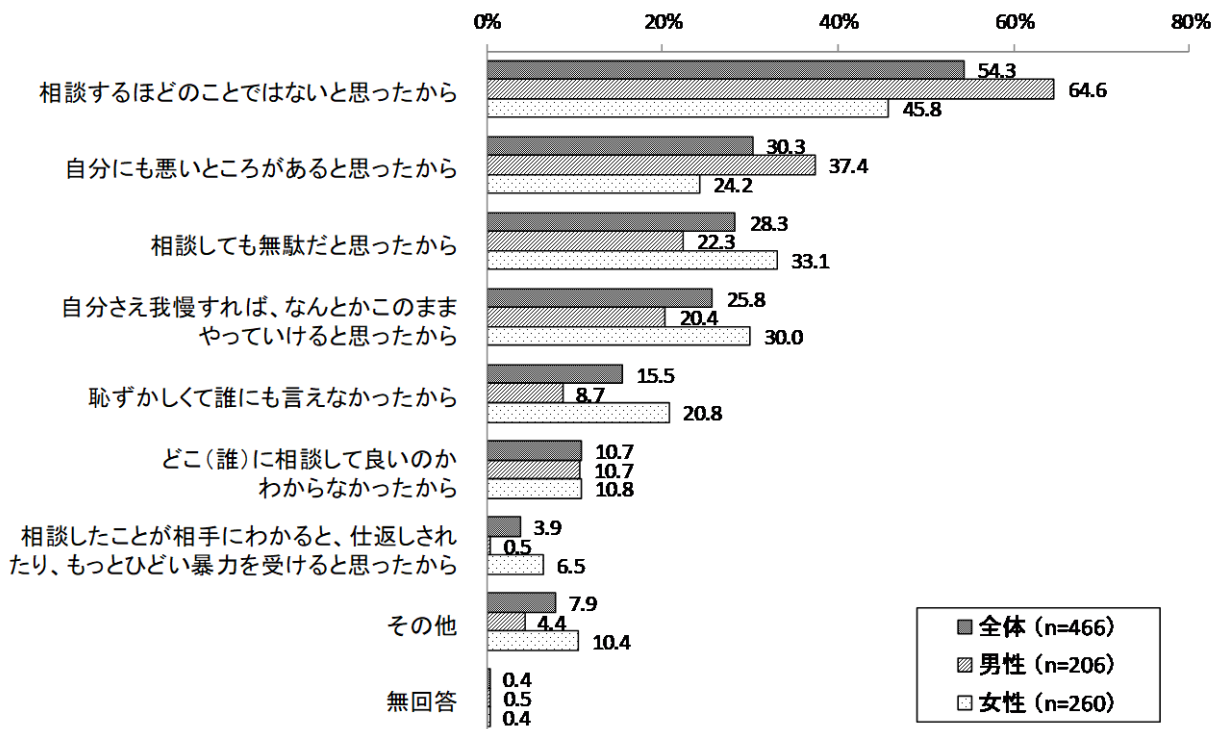
問18-2で「相談しなかった」と回答した人（466人）に対して、相談しなかった理由をたずねた。

全体では、「相談するほどのことではないと思ったから」（54.3%）が最も高く、次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」（30.3%）、「相談しても無駄だと思ったから」（28.3%）、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（25.8%）となっている。

性別で見ると、「相談するほどのことではないと思ったから」では男性（64.6%）が女性（45.8%）を18.8ポイント上回っている。

また、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」では女性（20.8%）が男性（8.7%）を12.1ポイント上回っている。

図表4-3-5 相談をしなかった理由 — 性別

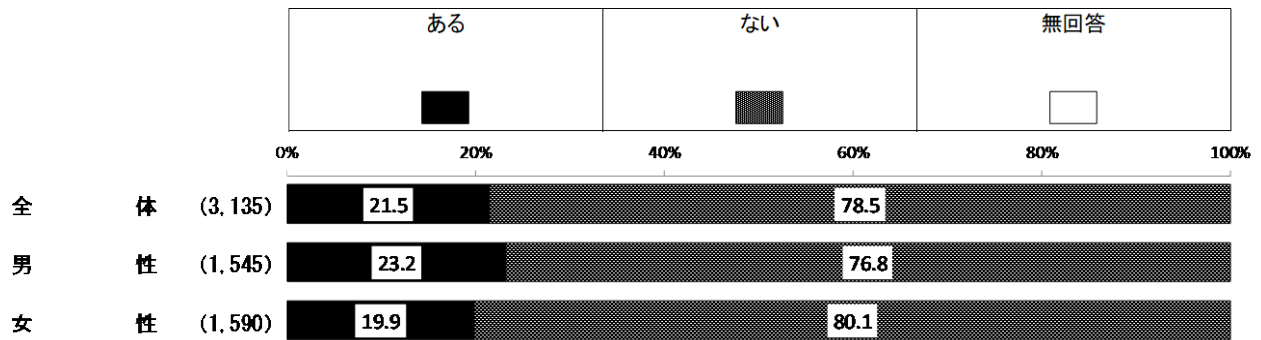


4 配偶者やパートナー、交際相手に暴力にあたる行為をした経験（問19）

配偶者やパートナー、交際相手に暴力にあたる行為をしたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」と一つでも回答した人）は、全体で21.5%となっている。

性別でみると、「ある」は男性（23.2%）が女性（19.9%）を3.3ポイント上回っている。

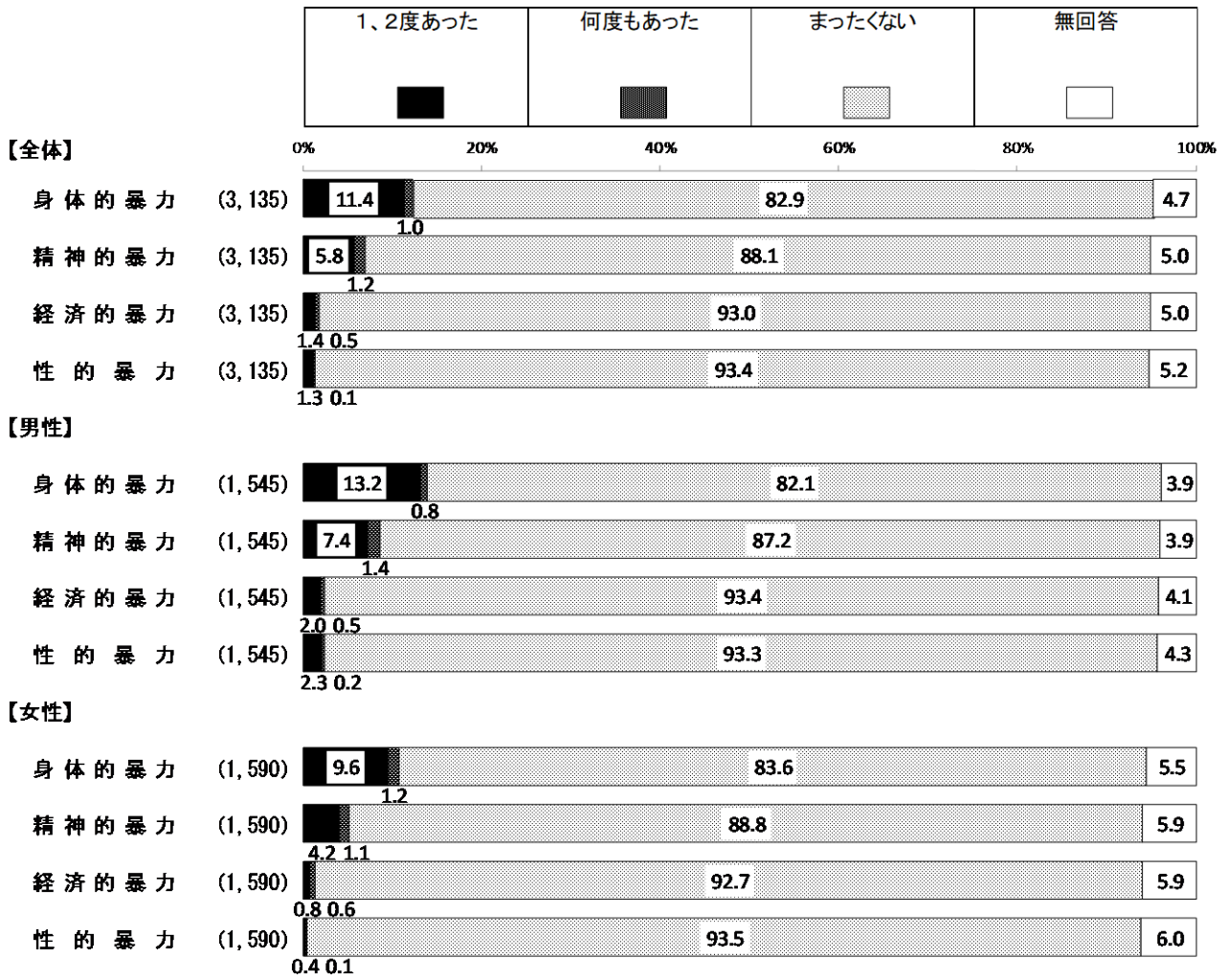
図表4-4 配偶者やパートナー、交際相手に暴力にあたる行為をした経験 — 性別



(1) 身体的暴力、精神的暴力、性的暴力の種類別経験

配偶者やパートナー、交際相手に暴力にあたる行為をしたと答えた人を性・種類別で見ると、身体的暴力(12.4%)が最も高く、次いで、精神的暴力(7.0%)、経済的暴力(1.9%)、性的暴力(1.4%)となっている。

図表4-4-1-1 配偶者やパートナー、交際相手に暴力にあたる行為をした経験
- 種類別、性・種類別



(2) 配偶者やパートナー、交際相手に身体的暴力にあたる行為をした経験

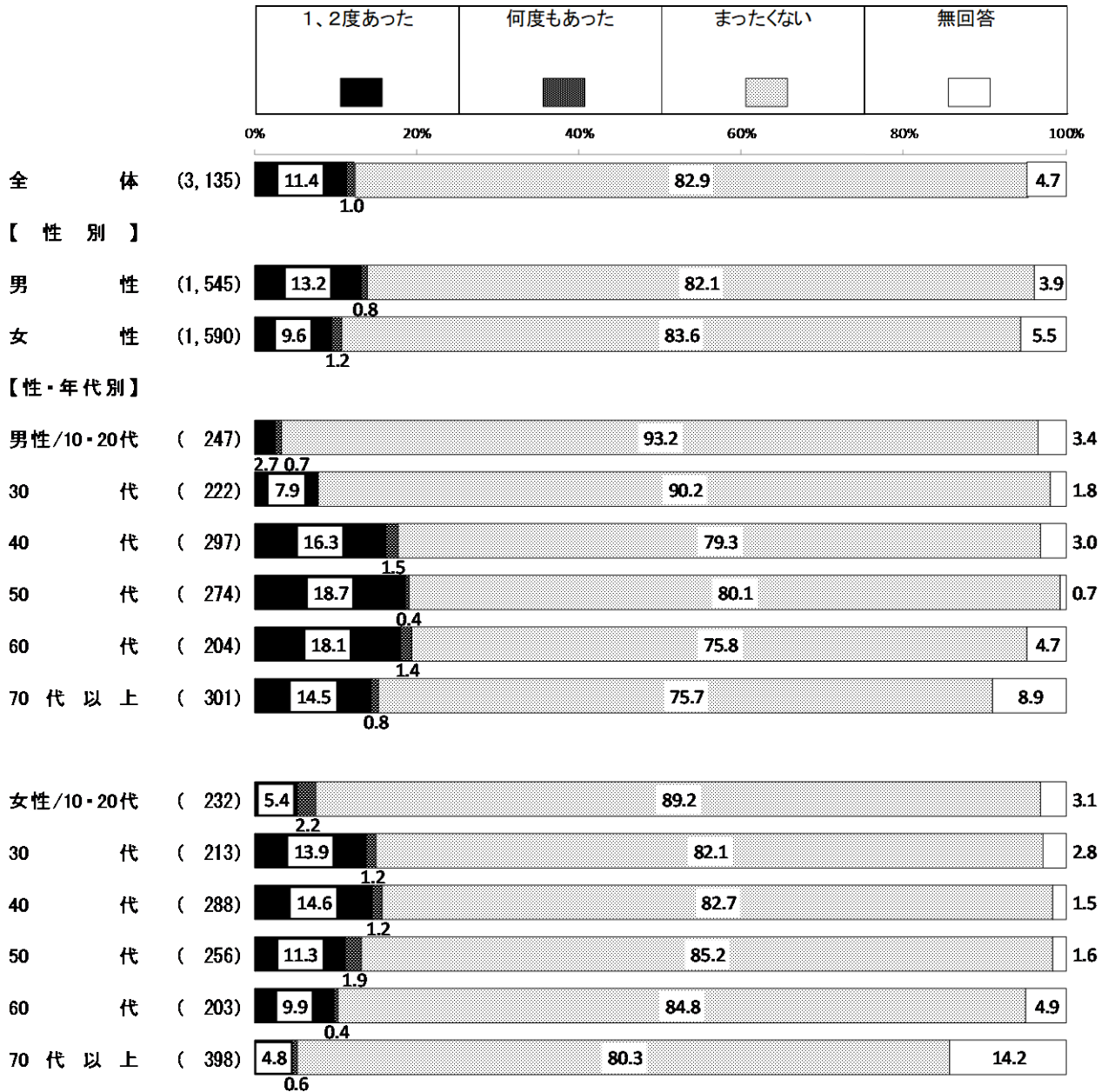
－ 性別、性・年代別

配偶者やパートナー、交際相手に身体的暴力にあたる行為をしたと答えた人は、全体で12.4%となっている。

性別で見ると、男性(14.0%)が女性(10.8%)を3.2ポイント上回っている。

性・年代別で見ると、男性60代(19.5%)が最も高くなっている。

図表4-4-1-2 配偶者やパートナー、交際相手に身体的暴力にあたる行為をした経験
－ 性別、性・年代別



(3) 配偶者やパートナー、交際相手に精神的暴力にあたる行為をした経験

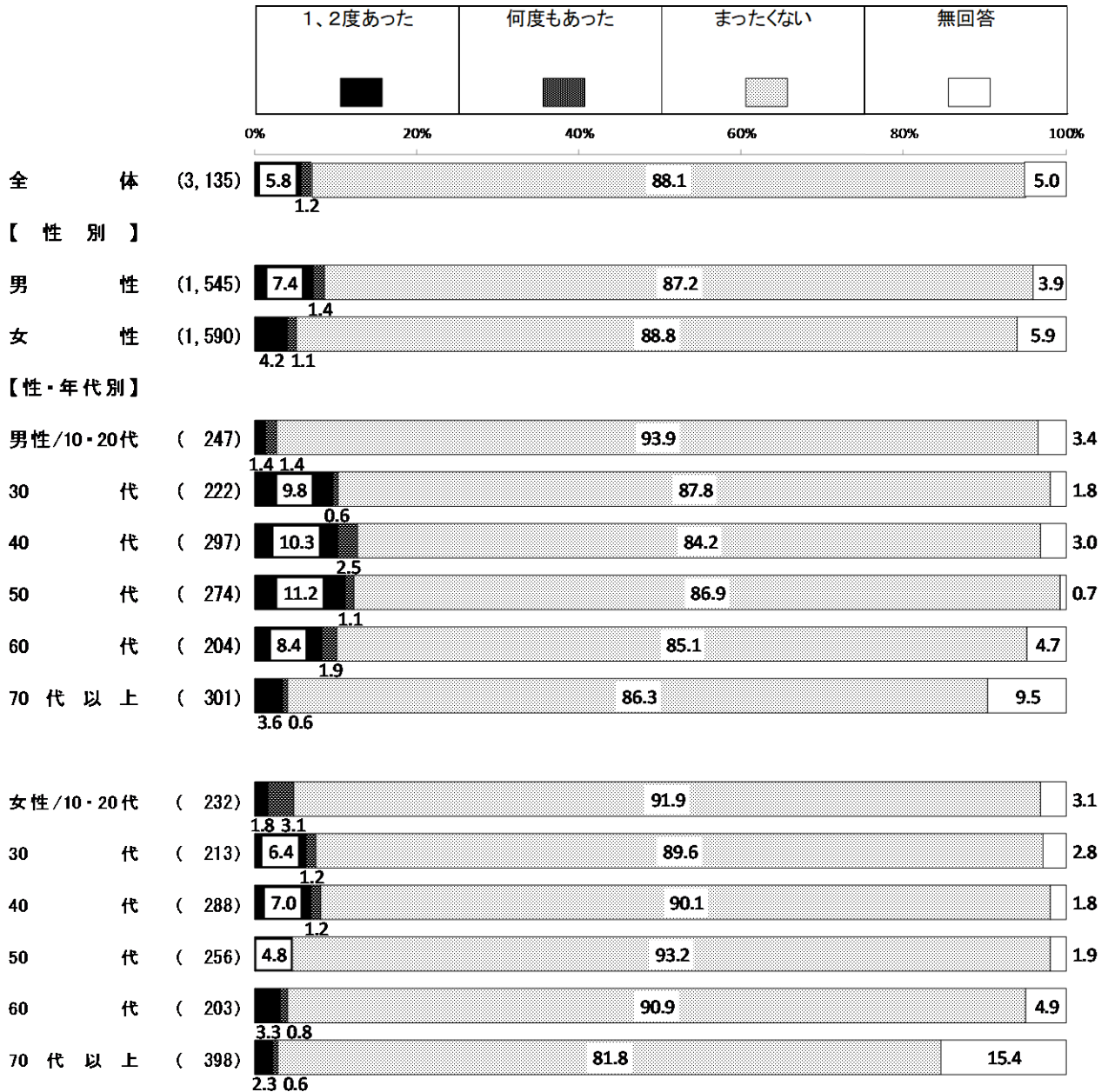
－ 性別、性・年代別

配偶者やパートナー、交際相手に精神的暴力にあたる行為をしたと答えた人は、全体で 7.0% となっている。

性別で見ると、男性 (8.8%) が女性 (5.3%) を 3.5 ポイント上回っている。

性・年代別で見ると、男性 40 代 (12.8%) が最も高くなっている。

図表 4-4-1-3 配偶者やパートナー、交際相手に精神的暴力にあたる行為をした経験
－ 性別、性・年代別



(4) 配偶者やパートナー、交際相手に経済的暴力にあたる行為をした経験

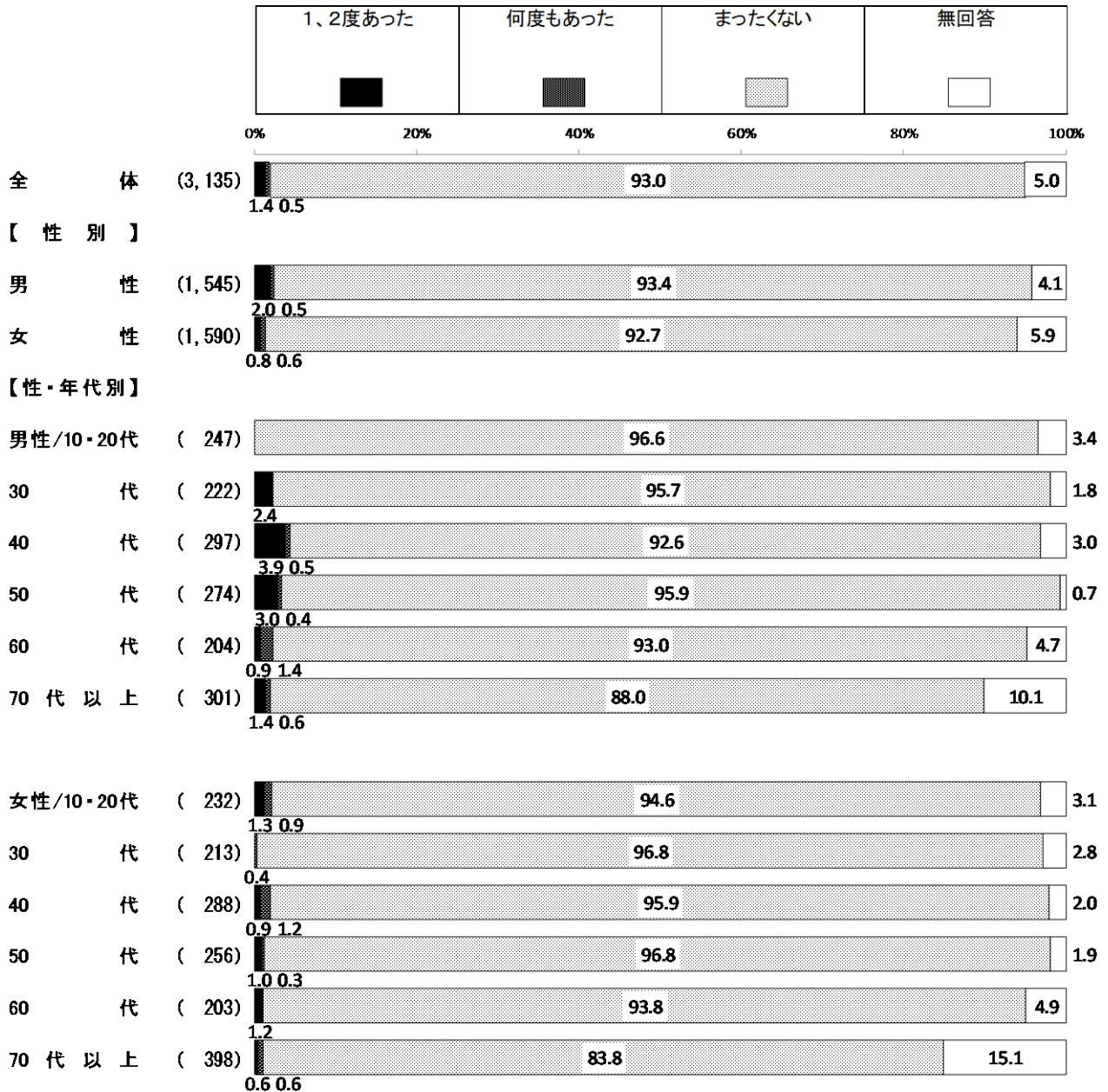
－ 性別、性・年代別

配偶者やパートナー、交際相手に経済的暴力にあたる行為をしたと答えた人は、全体で 1.9% となっている。

性別で見ると、男性 (2.5%) が女性 (1.4%) を 1.1 ポイント上回っている。

性・年代別で見ると、男性 40 代 (4.4%) が最も高くなっている。

図表 4-4-1-4 配偶者やパートナー、交際相手に経済的暴力にあたる行為をした経験
－ 性別、性・年代別

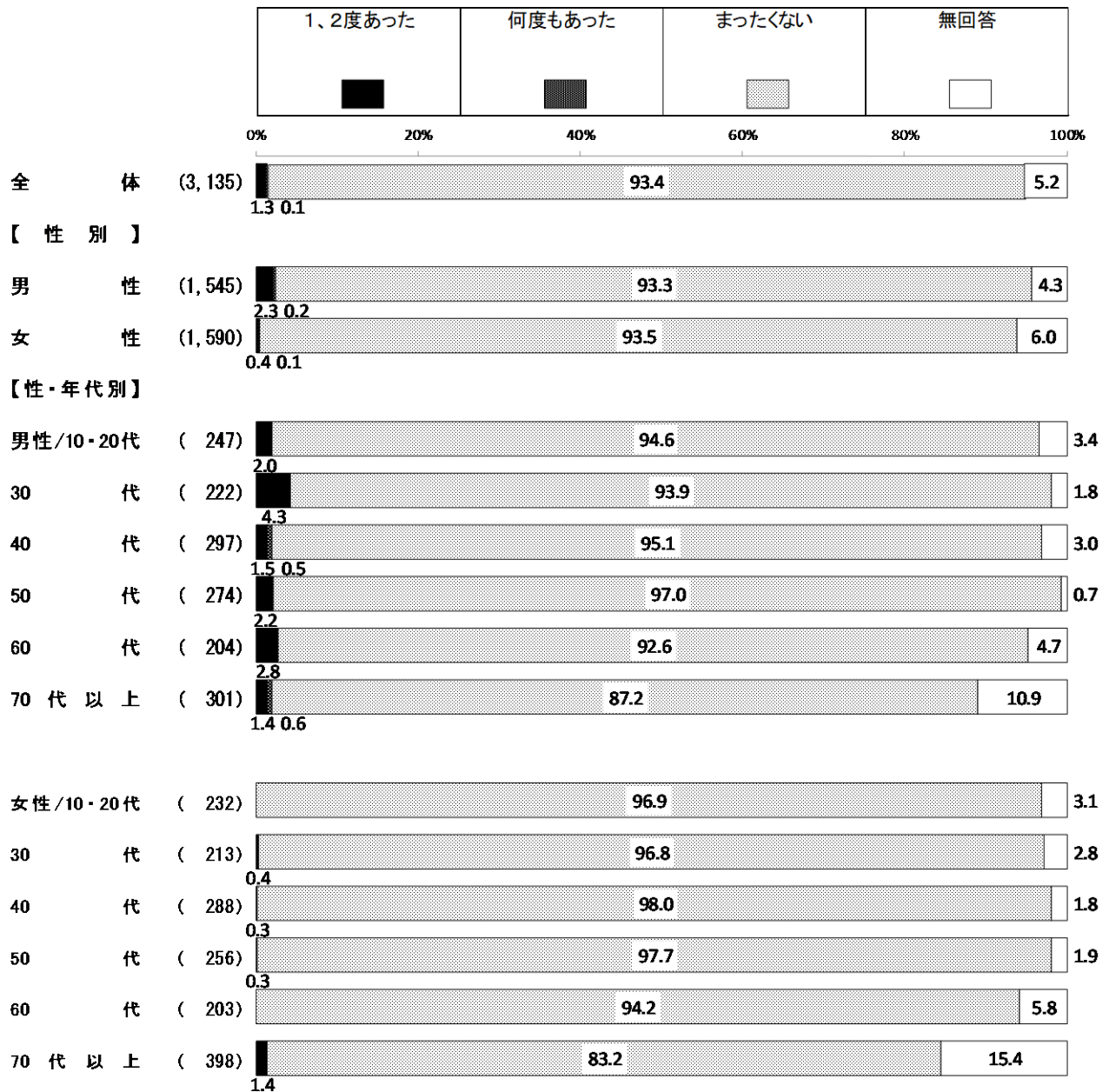


(5) 配偶者やパートナー、交際相手に性的暴力にあたる行為をした経験 — 性別、性・年代別
 配偶者やパートナー、交際相手に性的暴力にあたる行為をしたと答えた人は、全体で 1.4% となっている。

性別で見ると、男性 (2.5%) が女性 (0.5%) を 2.0 ポイント上回っている。

性・年代別で見ると、男性 30 代 (4.3%) が最も高くなっている。

図表 4-4-1-5 配偶者やパートナー、交際相手に性的暴力にあたる行為をした経験
 — 性別、性・年代別



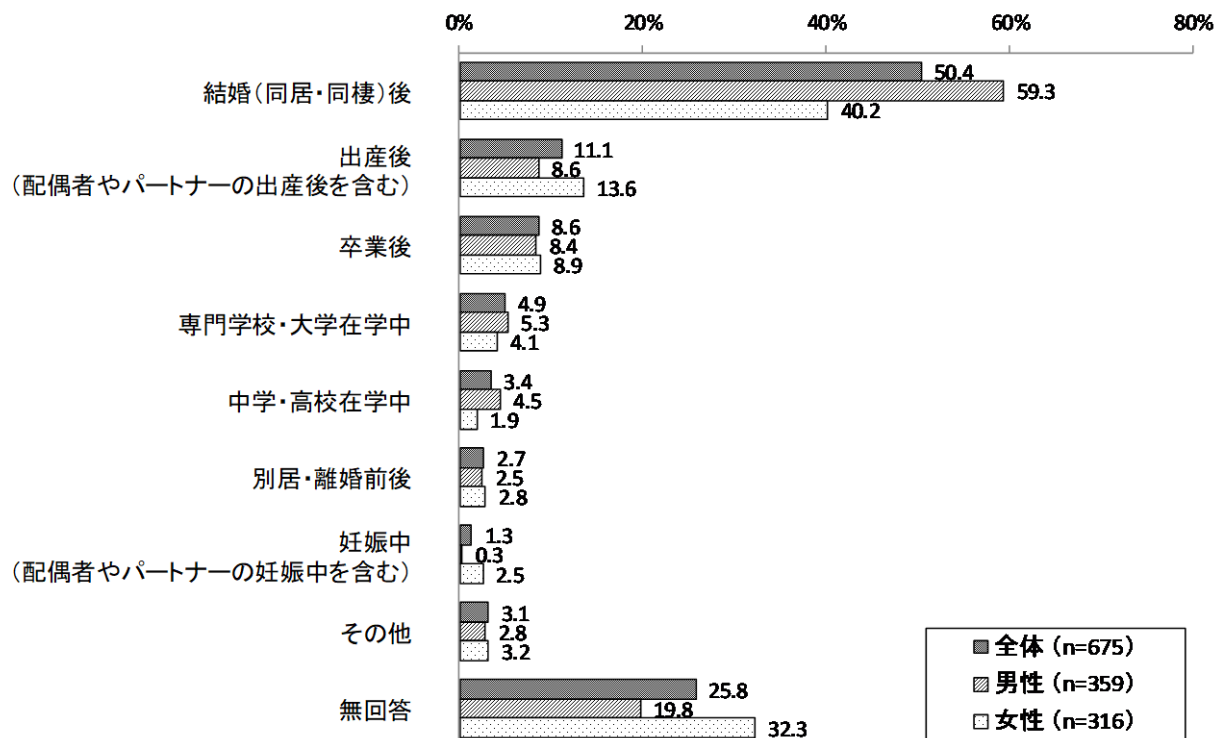
4-1 暴力にあたる行為をした時期（問19-1）（複数回答）

問19の暴力にあたる行為を「1、2度あった」および「何度もあった」と回答した人（675人）に、その行為をした時期をたずねた。

全体では、「結婚（同居・同棲）後」が50.4%で最も高く、次いで「出産後（配偶者やパートナーの出産後を含む）」（11.1%）、「卒業後」（8.6%）の順となっている。

性別でみると、「結婚（同居・同棲）後」では男性（59.3%）が女性（40.2%）を19.1ポイント上回っている。

図表4-4-6 暴力にあたる行為をした時期 - 性別



5 配偶者やパートナーからの暴力の被害の相談をしやすくするために必要なこと（問 20）

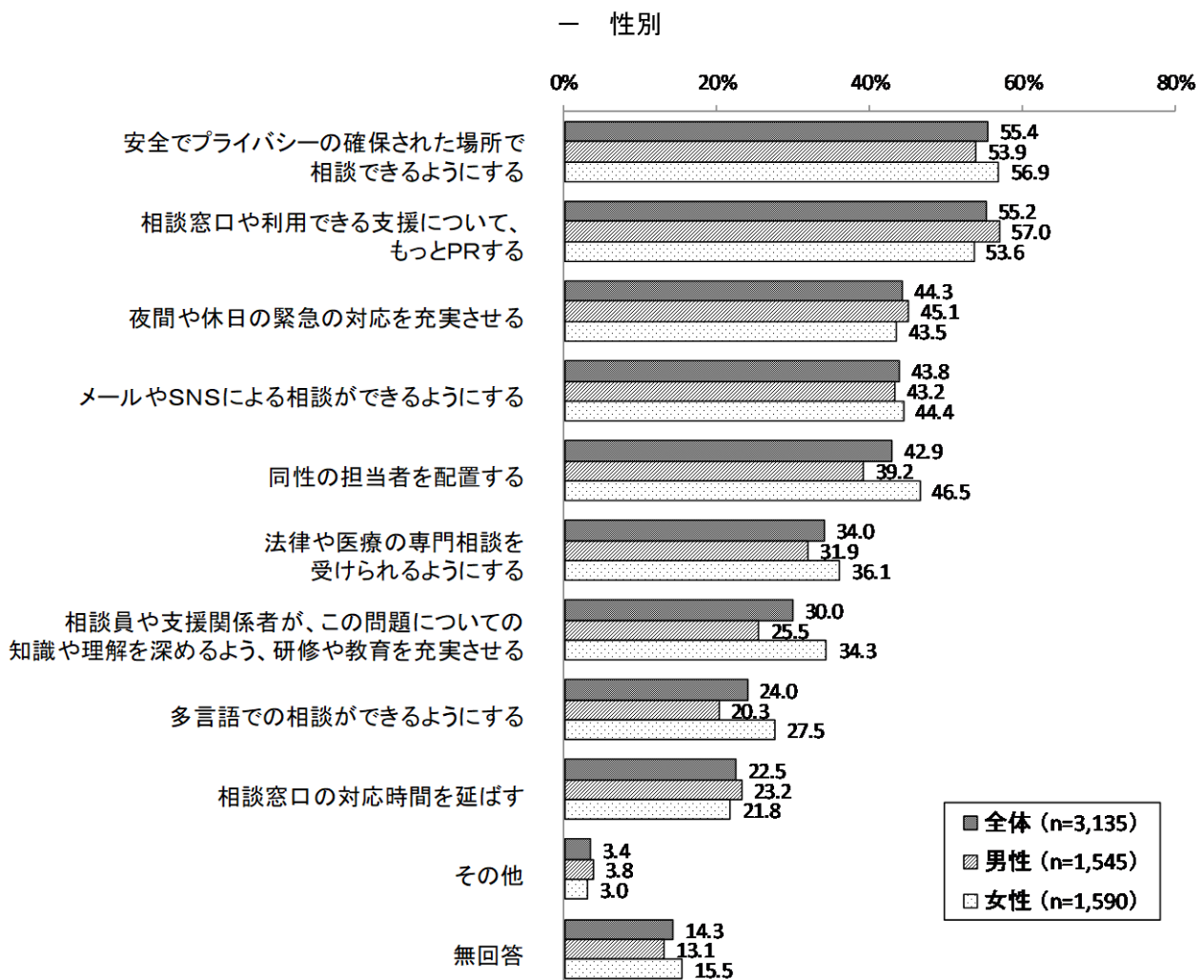
（複数回答）

配偶者やパートナーから暴力の被害を受けた方が、暴力についての相談をしやすくするために必要なことについてたずねた。

全体では、「安全でプライバシーの確保された場所で相談できるようにする」(55.4%) が最も高く、次いで、「相談窓口や利用できる支援について、もっと PR する」(55.2%)、「夜間や休日の緊急の対応を充実させる」(44.3%) となっている。

性別でみると、「相談員や支援関係者が、この問題についての知識や理解を深めるよう、研修や教育を充実させる」では女性 (34.3%) が男性 (25.5%) を 8.8 ポイント上回っている。

図表 4-5 配偶者やパートナーからの暴力の被害の相談をしやすくするために必要なこと



第5章 男女共同参画について

1 男女共同参画社会の実現に向けて重点的に取り組むべきこと（問21）（複数回答）

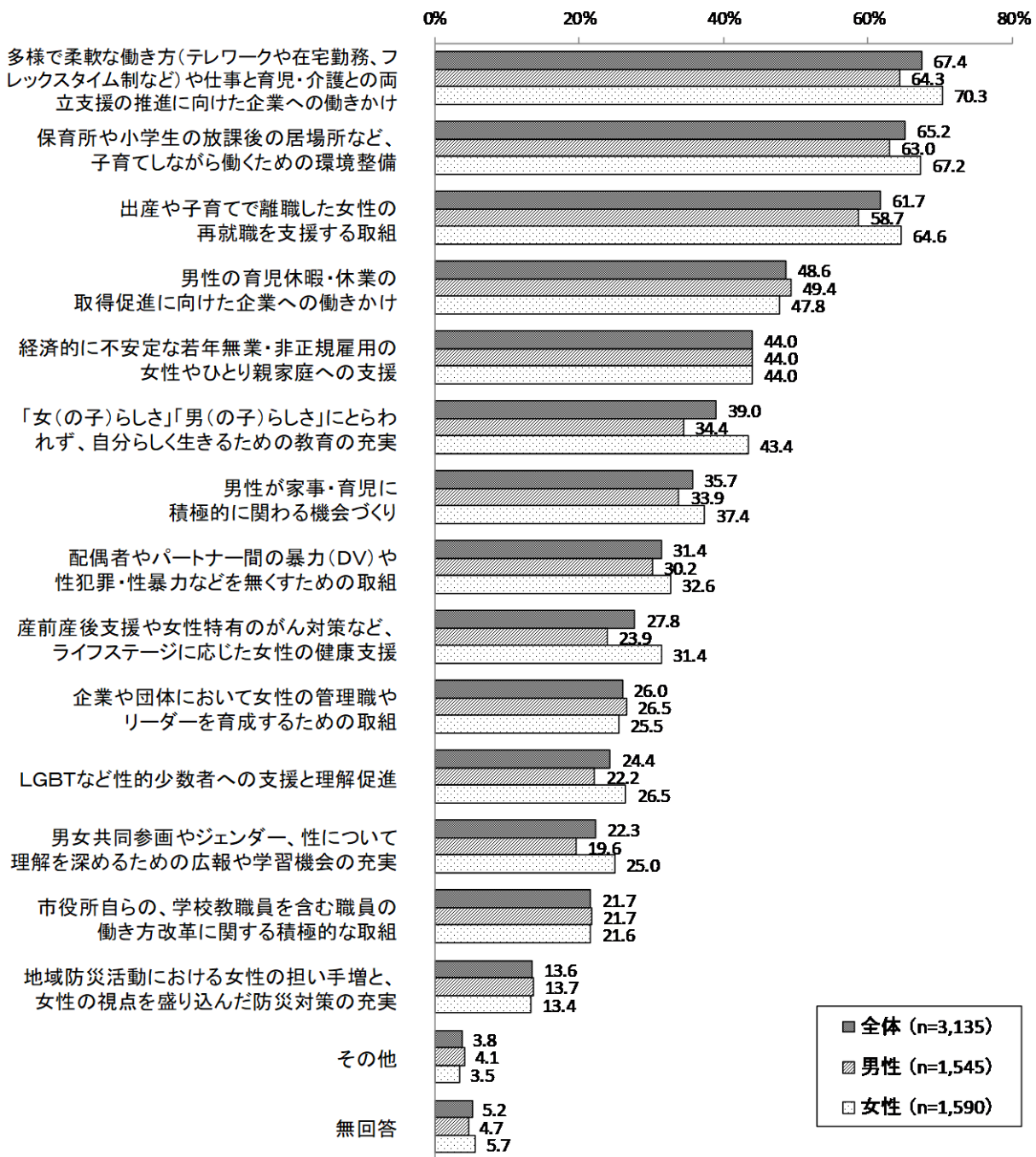
男女共同参画社会の実現に向けて、横浜市が重点をおいて取り組むべきと思うことをたずねた。

男女ともに、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」がそれぞれ 64.3%、70.3%と最も高く、次いで、「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」がそれぞれ 63.0%、67.2%、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」がそれぞれ 58.7%、64.6%となっている。

性・年代別にみると、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」は、女性の30代では8割を超えている。

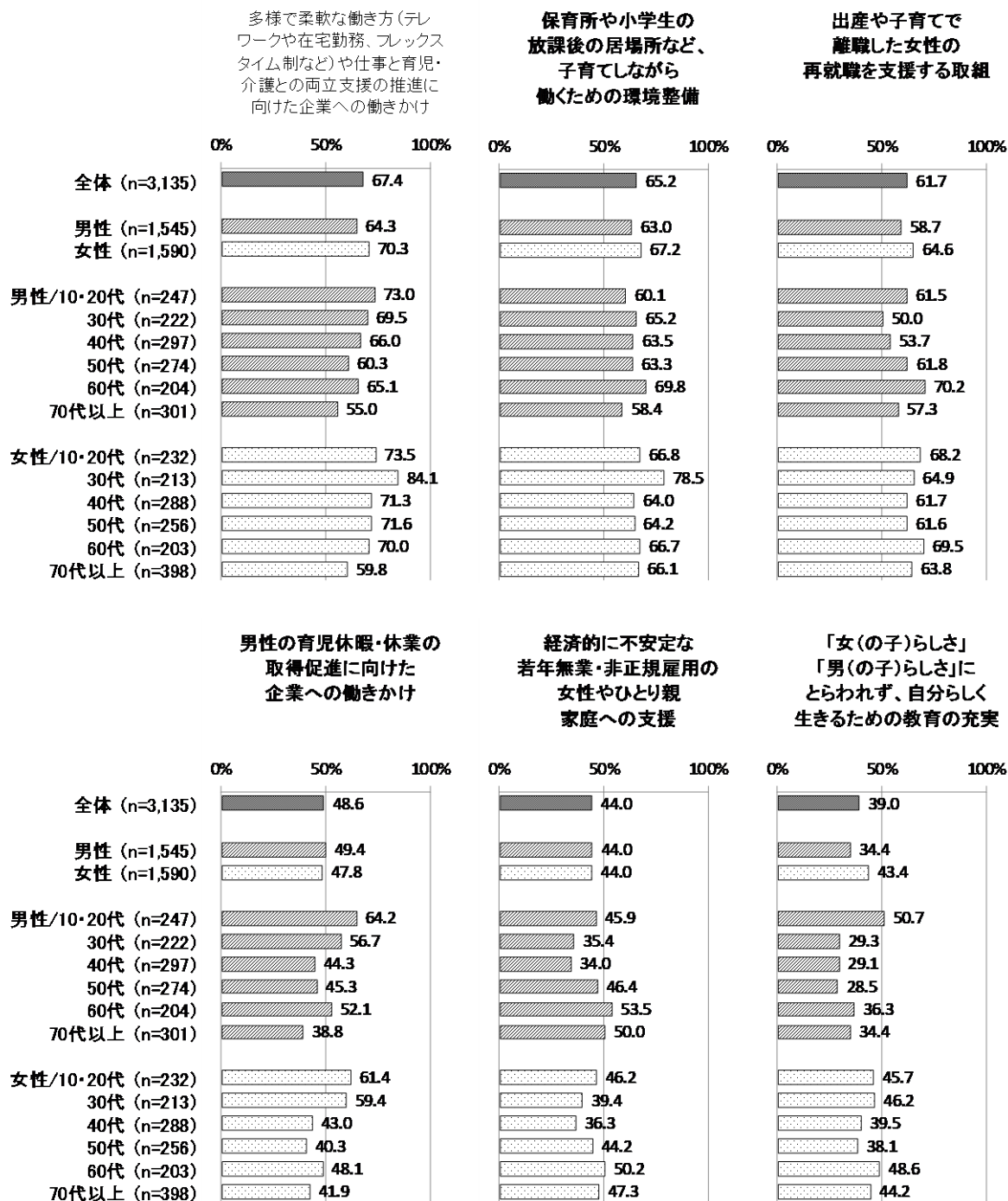
また、男性では全15項目中、半分以上の8項目で10・20代の若年層が最も高くなっており、特に『女（の子）らしさ』『男（の子）らしさ』にとらわれず、自分らしく生きるための教育の充実」では唯一過半数を超えている。

図表5-1 男女共同参画社会の実現に向けて重点的に取り組むべきこと - 性別



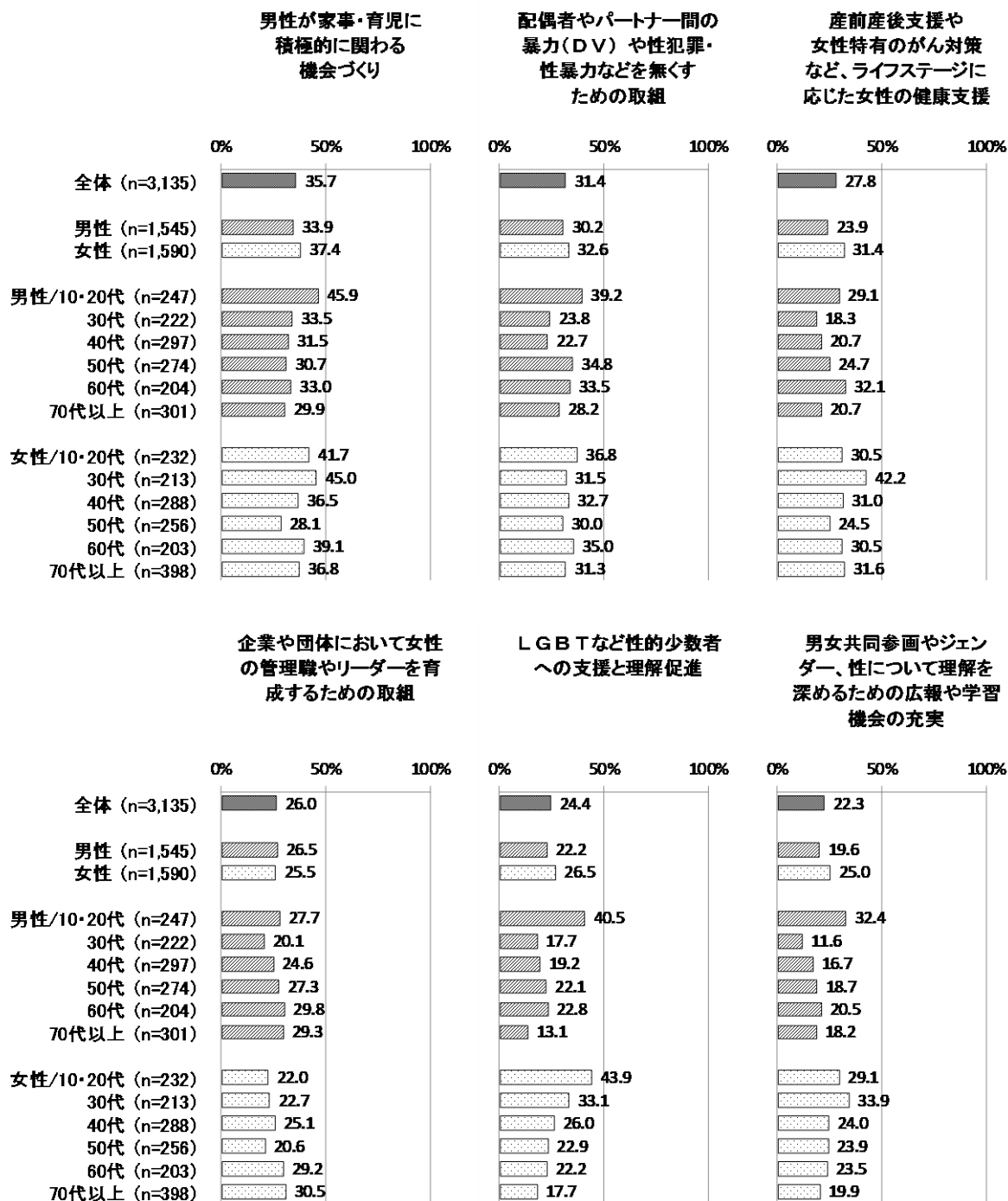
図表5-1-1 男女共同参画社会の実現に向けて重点的に取り組むべきこと

ー 性別、性・年代別（1/3）



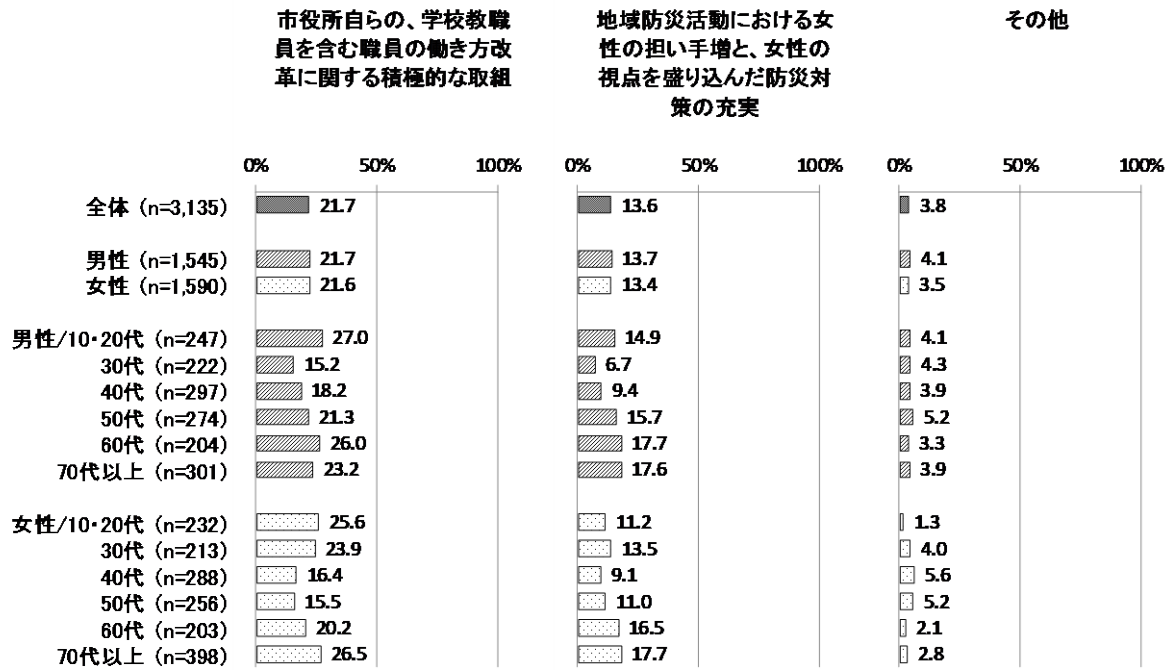
図表5-1-1 男女共同参画社会の実現に向けて重点的に取り組むべきこと

ー 性別、性・年代別（2/3）



図表5-1-1 男女共同参画社会の実現に向けて重点的に取り組むべきこと

ー 性別、性・年代別（3/3）



第6章 自由意見

1 男女共同参画についての自由意見（問22）

男女共同参画についての意見を自由回答形式で求めたところ、810人から回答があった。一人で複数の回答を記入している場合は、それぞれ1件としているため、延べ件数は1,149件である。主な意見は次の通りである。

（1）家庭、学校における教育が重要であるという意見（59件）

- 女性に女性らしさを背負わせることは、男性に男性らしさを背負わせることとも同じことだと思います。まず教育から変えてください。
- 女性の社会進出について、高校、大学時代から意欲的な教育の場が望まれる。
- 小学校高学年と中学を中心にきちんとカリキュラムの中でしっかり考えさせることが大切。
- 教育の現場で”男女共同参画”について取り上げる機会を増やしたり、大人がもっと意識をもって日々の生活を過ごす努力が必要なのかなと思います。
- 男女共同参画を実現する為には、性差別の意識を無くす必要があります。それには今後の初等教育の果たす役割が大きいと思います。
- 10代～20代の層の方に、男女共同参画社会に興味を持ってもらうために、もっとわかりやすく行政から説明すべきだと考えます。学校教育等で授業に取り入れることが可能なら進めていくべきです。
- 男性だけではなく、女性自身の意識を変えるために教育が最も重要であると考えます。
など

（2）男女間の平等や個人の尊重、男女の役割に関する意見（212件）

ア 男女間での平等について（50件）

- もっと男女平等の社会になれば良いと思う。表面上では男女平等と言っていることは多いが実際は、男女平等ではないことが多いように思う。
- まだまだ男性が有利、女性軽視の世の中ではあると思う。男性だから、女性だからというより、それ以前に人としての多様性を性別に関わらず理解が広まる世の中になって欲しいと思う。
- いろいろな職業について、男性の仕事、女性の仕事と分けず平等に機会を与えて欲しい。
- 性別を理由に出世が出来ないということがあってはいけないと思う。
- 母子家庭には手厚いサポートがあるのに父子家庭にはサポートが少なすぎる。そういった支援においても男女に差があるのはおかしい。
など

イ 個人・個性を尊重することが必要という意見（115件）

- 女性、男性共にその性ならではの良さもあり、特長を伸ばせる社会、家庭作りが大切であると思う。
- 政治や社会において男も女もないと思うのでやりたいと思った人ができる世の中になればいいと思う。

- 日本はまだまだ男女平等ではない。「男だから」「女だから」という言葉が使われなくなるような社会になるべき。
- 必ずしも女性比率を上げることを目的にすべきではない。能力のある人を男女関係なく参画させることが必要だと思っている。
- 女性だからという理由で冷遇されるのは問題だけれど、能力に関係なく女性だから登用するというのも問題だと思います。
- 男女平等を強いるのではなく、性別にとらわれず、1人1人が家庭や職場で自分にふさわしい役割を得られることが大切と思う。
- 女性が働きやすい環境になるように努力していくことはもちろん必要かと思いますが、同様に男性もそれに協力しやすい体制であり、また男性が差別されるような職場がなくなるようになると良いと思いました。

など

ウ 男女の役割分担や適性について（88件）

- 男性だから、女性だからという線引きのない社会が理想である。又、男性だから出来る事、女性だから出来る事もある。
- 男女の役割やジェンダーへの考え方が変わってきて理解がされるようになってきた様にも見えるが、まだまだ浸透していない部分もある様に感じる。
- P T Aや地域活動に参加するのはほぼ女性である。働く女性が増加しており、できれば時間を育児、家事に使いたい、そういった活動に使わなくてはいけないことがある。P T Aや地域活動の参加が半強制になっているが、やりたい人が参加するようにすべきである。
- 男女共同参画、基本的には賛成だが、男女それぞれが得意とすること・もともと備えもつ特徴や体力など違うのですべて同じことをこなすのは無理だと思う。

など

（3）女性の結婚・出産・家庭のあり方など意見（16件）

- 育児だけでなく、妊活中女性の柔軟な働き方（フレックス、在宅 etc）も支援して欲しい。子供がいたり、介護する親がいるのところが、不妊治療で休むのは肩身が狭い。社会全体で応援する意識を作って欲しい。

など

（4）男女の役割についての固定的・伝統的な考え方に関する意見（94件）

- 女らしさ、男らしさが強要されることが問題。不快な思いさえしていなければ、女らしさ、男らしさという概念があっても、悪いというわけではない。
- 日本はまだまだ男性が働き、女性が家庭にいるべきだという考え方が多いため、女性が子供の学校行事(授業参加)などに行くのがあたり前みたいになっている。働いている女性は、仕事を休み、そうするとなかなかいい仕事ができない。男性も子育てにもっと参加するべき。
- 男性が育休を取りにくい社会の雰囲気改善していく必要があると強く思います。
- 日本は先進国なのにこういった内面に関する意識的なことは他の国に比べて遅れていると思う。

- 男性だから、女性だからという固定概念にとらわれなくて、能力のある人を適材、適所で、能力を発揮できる世の中にしていく方が良いと思います。

など

(5) 女性の社会参画に関する意見 (86 件)

- 政治にももっと多くの女性が加わるべき。国の代表から変わらなければ私たちの社会まで反映されない。
- 出産での休職、復職後の時短勤務をせざるを得ない状況が女性の昇進の妨げになっている事象が散見されます。保育の充実と男性の育児勤務の利用促進を行い、スムーズな復職が出来る環境を整える必要があると思います。
- 男女共同参画は良い事と思う。これからも女性の社会進出を進めて行くべきと考える。
- 社会で女性のリーダーをもっと増やして欲しい。
- 女性が積極的に政治や会社で参画できる様な風土、風習、環境になっていない。

など

(6) 男女の就労・労働環境・企業の役割に関する意見 (117 件)

- “アフター5”の習慣がある限り、女性はそこで差別的に扱われることが多いようだ。
- 男女共に同じ事ができるように会社も社会も考え方を考える必要があると思います。女性の登用ですが、数だけ増やしてもしょうがないと思う。
- 男女が平等に育児休暇など取れるようになる社会になればいいなと思います。
- 男性が育休を取るのに後ろめたく感じない環境づくり、復職後の状況作りは必須だと思う。
- 会社として男性の育児休暇が取得可能であっても、周りからの声や復帰後に仕事が無くなっていて、居場所が無くなっていったというのも現実問題であると思います。ルールや平等を発信していくのはもちろんですが、会社などの受け入れていく側の対策の方が重要だと考えます。

など

(7) ワーク・ライフ・バランス、家事・育児・介護の役割と分担に関する意見 (18 件)

- 女性の社会進出が進んでいますが、ライフイベント(結婚、出産、子育てなど)と仕事の両立がまだまだ難しいのが現状だと思います。
- 男女共同参画には、ワークライフバランスを考えた生活が必要であると思うので、企業に対し育休制度や福利厚生の実施を働きかけて欲しいと思っています。
- 今以上の男女共同参画を推進するのであれば男性側の家事育児の積極的な参加、育児休業の取得が必要だと思っています。

など

(8) 子育て支援に関する意見 (57 件)

- ライフステージ(出産・子育て等)に合わせた女性への社会進出の支援が充実すれば、より女性が働きやすい社会になると思います。子育て期間中、一度退職しても再雇用の機会があると働き続けられると思います。

- 出産や子育てで離職した女性の再就職をぜひ支援していただければ嬉しいです。子育てしながらの仕事の場合週1～2日やフルタイムではない働き方では現状保育園への入園ができません。様々な状況に応じた働き方ができるよう、支援していただくと嬉しいです。
- 出産や子育て保育園の問題で女性が休職や退職せざるを得ないことが多いと思うので、男性の育休や企業での保育所などを整えて欲しいと思います。
- 子育てを女性のみ押し付けるのではなく、社会全体がフォローできる仕組みを整える事から始めなければならないと思います。
- 子どもが0・1歳でなければ保育園に入れない。幼稚園の預かりが充実していないのは働きたい保護者には障害です。

など

(9) 男女共同参画についてのPR、意識啓発の必要性に関する意見 (63件)

- 言葉は知っていますが、具体的な知識をもっと国民一人一人が理解するべきだと考えます。
- 「男女共同参画」と言われても、具体的に何をしようとしているのか分かり難い。
- 男女とかに、こだわった事はないので、あまり、考えることがなかった様に思う。

など

(10) 男女共同参画全般について (115件)

- 男女共同参画を実現するためには一企業、一団体だけではなかなか難しいと思います。
- 取り組むべき事ではあるが、節度ある取り組みが必要。男女平等を数字で実現する為に能力に関係なく昇進させたり、実現できていないことに対して強要したり、非難をするような風潮は作っていけない。
- 現在、男女平等が非常に進んでいる世の中だと認識しています。しかし、まだ少し女性への差別が残っていると思われるので、女性に寄り添う政策や制度を優先的に整備していく必要があると考えられます。それに伴い、以前より男性への差別がでてくる可能性があるため、それに伴った政策や制度も同時に整備していかないといけないかなとも思いました。
- 法や理念として謳われているものの、実社会ではまだ実現できていないと感じられません。
- 男女共同参画に介護問題をもう少し取り組んだ方が良いのではないかと考えています。

など

(11) 社会制度・法・施策などについて (158件)

- コロナ感染拡大を機に、リモートワークの利用がすすめば、男女関係なく、子どもの生まれた後の再就職がしやすいと思う。行政からリモートワーク推進の働きかけが企業に対してであると嬉しい。
- 現在のように男性と女性の生涯所得の差が大きいこと。(男性は正規労働者、女性はパート・アルバイト・非正規労働者)は社会としてもったいないことです。
- 現在の働く環境を良くすることと1人ずつの認識を育てることも大切に感じます。
- 子育てや介護をしながら仕事をするための社会的環境整備が整わなければ、男女共同参画をなしえないと考える。
- 男女共同参画の法律、支援体制、男女の当事者意識など近年改善されつつあるが、女性がそ

の能力を発揮できる支援(環境整備、雇用形態など)の実態が伴っていないと思う。

- 夫婦別姓は是非実現して欲しいです。
- 結婚後、通称として旧姓が使える範囲が広がって欲しい。旧姓が通用しないことが、女性の社会的不利に繋がっていると思うため。

など

(12) その他 (113 件)

- L G B Tなどのパートナーシップ制度の充実を希望致します。
- 単純に男女だけでなく、L G B Tの人も生活しやすい環境づくりが整備されると良いと思う。
- 保育園のときはお父さんの参加も多いが、小学校からは母親の世界になっており、とても居心地が悪い。P T A会長だけが父親で、とても不自然。
- 県立学校市立学校の給食を導入して欲しい。

●

など

2 配偶者やパートナーからの暴力の根絶と被害者への支援についての意見（問23）

配偶者やパートナーからの暴力の根絶と被害者への支援についての意見を自由回答形式で求めたところ、485人から回答があった。一人で複数の回答を記入している場合は、それぞれ1件としているため、延べ件数は614件である。主な意見は次の通りである。

（1）発見や解決には、近隣の見守りや社会環境が重要（22件）

- 暴力の被害があったら素直に声を出せるような社会づくりが必要だと思います。
 - 当事者だけではなく、社会で、地域で見守る、気付く、対処することが求められると思います。
- など

（2）被害者の保護・支援について（109件）

- 緊急避難場所の公的設置・就労支援と保育の支援の強化が必要。
 - 相談できて、すぐ逃げ込めるシェルターのような場所が必要だと思う。家族や家庭の問題だけでなく、社会全体で解決していく方向が良いと思う。
 - 被害者の方への確実に給付金が届くような仕組みが必要だと思う。
 - 女性から暴力を受けていた男性を収容する施設が無く困ったことがあった。
 - DV被害者の人への経済的なサポートが不可欠だと思う。
 - 病院スタッフだけでなく、市町村管轄のサポートがもっと身近に、もっとわかりやすく利用できるシステムがあると良いと思います。
 - いつでもどこでも逃げられる場所、安全な場所をもっと充実させて欲しい。
- など

（3）家庭や学校での教育が重要（72件）

- 子供に対して男女平等の教育に力を入れることが、暴力を振るわない大人になるために重要だと思います。
 - 自分の子どもたちがDVの加害・被害者になる可能性もあるため子どもたちにもしっかりそのような行為は暴力であることを伝え、身の守り方や回避の仕方を伝えていきたいと思う。
 - 暴力はいけないという教育を、小中高大学と全ての教育現場でとりいれて下さい。いけないというだけでなく、自己肯定感を高める、自分を大切に相手を大切にできる取り組みが増えればと思います。
 - 学校・家庭だけでなく社会全体で、子ども達を教育していく必要があるのではないのでしょうか。
- など

（4）加害者への刑罰やケアについて（51件）

- DVをやめることの手助けも整備して頂きたい。
- 命を守る為に法律でもっと積極的に被害者を守れるようにすべき。
- DVや性的暴力、虐待など弱い立場にある人への犯罪の罪が諸外国と比べても軽すぎると思う。

- DV被害者の指導、教育の徹底が必要。
など

(5) 相談体制 (126 件)

- 本人にしか分からないことがあると思うので、もっと慎重に、かついつでも相談が出来るシステムが必要だと思う。
- 被害を受けている自覚がなく我慢している場合も多いと思うので、どんな事でもささいな事でも相談できるオールマイティな窓口を作りそこから事案別に分けて、対応できると良いと思います。
- 性の相談はなかなか相談できる事ではないのでどこか相談できる所があればいいと思います。
- 暴力を受けている人が相談しやすい環境を整えることと暴力を受けている人が逃げられる場所を作る事が大切だと思います。
- 対応時間を夜間などにして被害者が相談しやすい環境を作ってあげて欲しい。被害者が心から信頼でき、立ち直れるような頼もしい相談体制が作られる様に希望している。
- プライバシー保護されながらも相談が出来る安心のおける支援サービスが必要。
- メールやSNSで相談できるサービスをより充実させることが大事であり、優先的に取り組むべき。
など

(6) 啓発活動・PR (69 件)

- SOSを気軽に発信出来る窓口（電話、メール等）の告知を行うべき。警察や、福祉保健センターが相談窓口ということは分かっているけど、わざわざ出向くことが出来ないと思います。
- SNSによるアンケートなどをして、回答することでDVを受けている自覚を持たせるということも一つの方法だと思います。
- 精神的暴力、経済的暴力は当事者が暴力だと気付かない場合が多くあるかと思っています。まず当事者が「暴力だ」と認識できるような知識を普及する事が必要。
- 自分がDVを受けていると感じていない人へ、それはDVであるという事例情報をSNSなどで、目にふれるようにしたら良い。
など

(7) 被害者支援と加害者対応の双方についての意見 (37 件)

- カウンセリングや精神的ケアを拡充して欲しい。
- 被害者はもちろん、加害者も両方へのカウンセリングも丁寧に、長期に出来るといい。
など

(8) 警察や行政が介入できる強制力や体制づくりが必要 (27件)

- DVに対しては、行政や社会等が毅然とした対応が必要と思う。
- 犯罪だと思うので警察にも介入してもらいたいし、刑罰も厳しくして欲しい。
- 行政と警察との連携が大切だと考えます。

など

(9) その他 (101件)

- 相談後も定期的な調査等の実施が必要だと思う。
- 男性が女性から受けた言葉の暴力（逆も然り）にもっとよく注目できるとよい。
- 男女共同参画センターのDV講座に出席し、とても役に立った。参加出来る日や時間があまりなかったので、沢山の方が参加出来るようになると良い
- 同居中の親きょうだい等の家族からの家庭内暴力（性暴力も含む）も同様に深刻な問題のため、それも含めた支援をして欲しい。

など